

富山市民意識調査結果報告書

平成20年12月

富山市

目 次

調査の概要	1
1 . 調査の目的	
2 . 調査の項目	
3 . 調査の設計	
4 . 回収の結果	
5 . 回答者の概要	
調査結果の概要	5
1 . 富山市の住み良さ	
2 . 富山市への定住意識	
3 . 富山市に住み続けたい理由	
4 . 富山市外へ引っ越したい理由	
5 . 施策の満足度	
6 . 今後のまちづくりの重点	
7 . 市民の普段の取り組み	
8 . 市の歌および市民憲章	
調査結果の分析	10
1 . 富山市の住み良さ	10
2 . 富山市への定住意識	12
3 . 富山市に住み続けたい理由	14
4 . 富山市外へ引っ越したい理由	17
5 . 施策の満足度	20
6 (1) . 今後のまちづくりの重点 (まちづくりの目標別)	36
6 (2) . 今後のまちづくりの重点 (全体)	46
7 . 市民の普段の取り組み	50
8 . 市の歌および市民憲章	54
使用した調査票	

この冊子のみかた

- ・比率はすべて百分率で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しているため、合計が100%にならない場合がある。
- ・複数回答の場合は、比率の合計が100%を上回る。
- ・Nは回答者数を示したものである。
- ・「前回調査」とは、平成17年10月調査の「富山市民意識調査」である。

調査の概要

1. 調査の目的

市の施策に対する満足度や市政への要望などについて市民の考えや意見を伺い、「総合計画」や市政の推進に反映させていくことを目的とする。

2. 調査の項目

- (1) 富山市での住み良さについて
- (2) 施策の満足度について
- (3) 今後のまちづくりの重点について
- (4) 市民の普段の取り組みなどについて
- (5) 市の歌および市民憲章について

3. 調査の設計

- (1) 調査対象 富山市に居住する 18 歳以上の男女
- (2) 標本数 6,000
- (3) 抽出方法 無作為抽出法
- (4) 調査時期 平成 20 年 7 月
- (5) 調査方法 郵送返送方式

4. 回収の結果

- (1) 標本数 6,000
- (2) 回収数 2,364
- (3) 回収率 39.4%

	富山地域	大沢野地域	大山地域	八尾地域	婦中地域	山田地域	細入地域	無回答	合計
配布数	4,200	400	200	400	600	100	100	-	6,000
回収数	1,604	166	73	166	244	35	44	32	2,364
回収率(%)	38.2	41.5	36.5	41.5	40.7	35.0	44.0	-	39.4

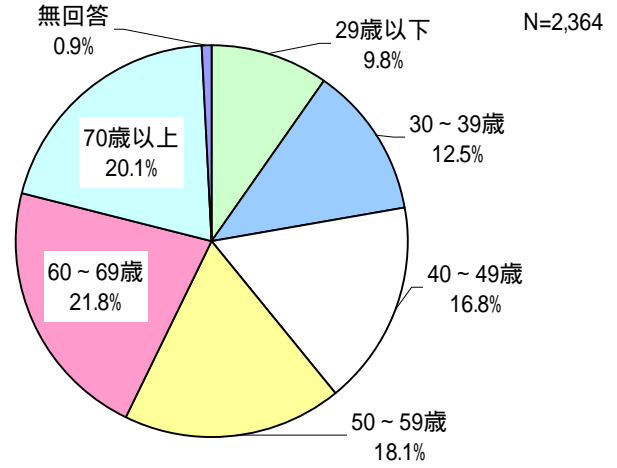
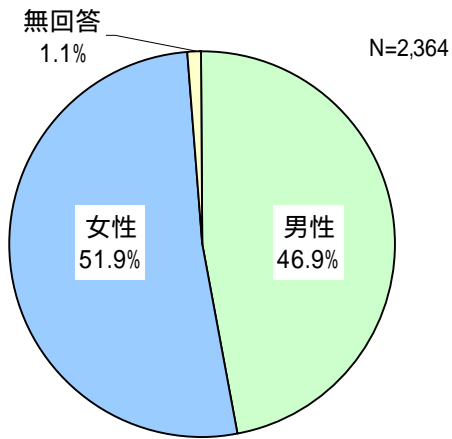
< 参 考 >

富山市総合計画における施策の体系



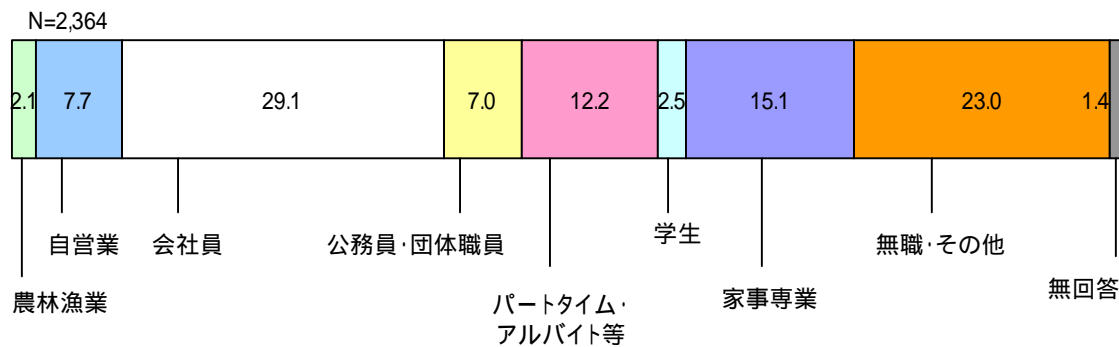
5 . 回答者の概要

[性別・年齢]

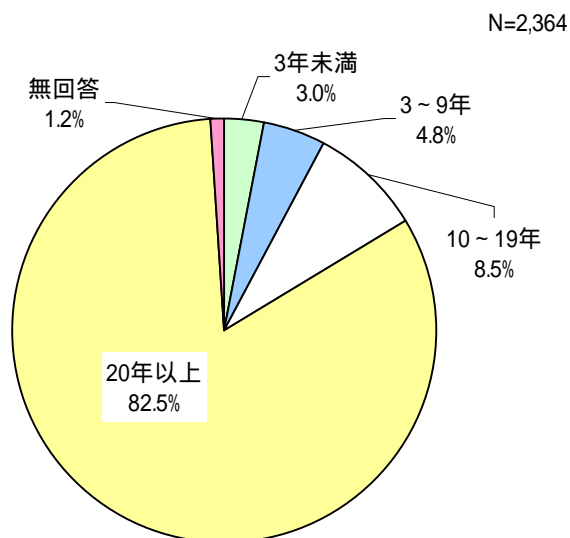


[職業]

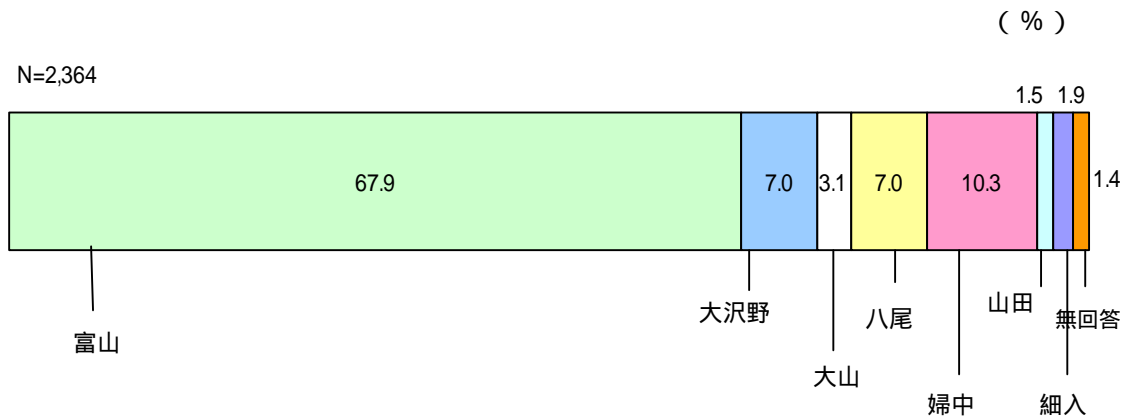
(%)



[居住年数]



[居住地（合併前の旧市町村別の区分）]



[性別・年齢別、居住地]

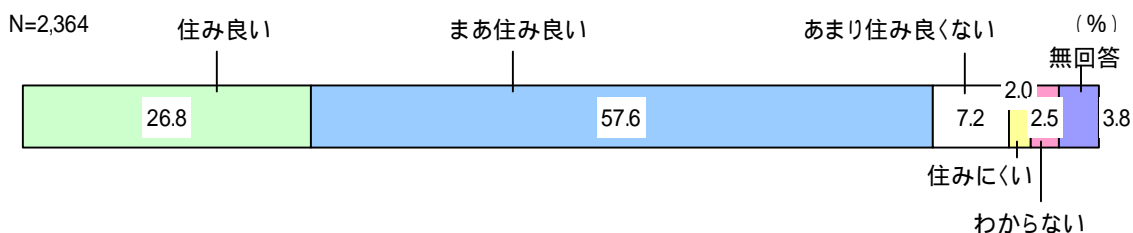
(%)

	該当者数 (人)	富山	大沢野	大山	八尾	婦中	山田	細入	無回答
全体	2,364	67.9	7.0	3.1	7.0	10.3	1.5	1.9	1.4
男性	1,109	68.7	6.9	3.7	7.4	9.4	1.5	2.3	0.1
女性	1,228	68.4	7.2	2.5	6.8	11.2	1.5	1.5	0.8
無回答	27	7.4	-	3.7	3.7	7.4	-	-	77.8
29歳以下	231	68.8	6.9	3.9	6.1	9.5	2.6	2.2	-
30～39歳	296	68.9	7.4	3.0	8.1	8.4	1.0	2.7	0.3
40～49歳	396	64.9	8.6	3.8	7.3	11.9	1.5	1.3	0.8
50～59歳	429	69.5	6.3	3.3	7.2	10.0	1.4	2.1	0.2
60～69歳	515	67.6	7.0	2.3	7.0	11.5	1.9	2.3	0.4
70歳以上	476	71.0	6.5	2.9	6.7	10.1	0.8	1.1	0.8
無回答	21	-	-	-	-	-	-	-	100.0

調査結果の概要

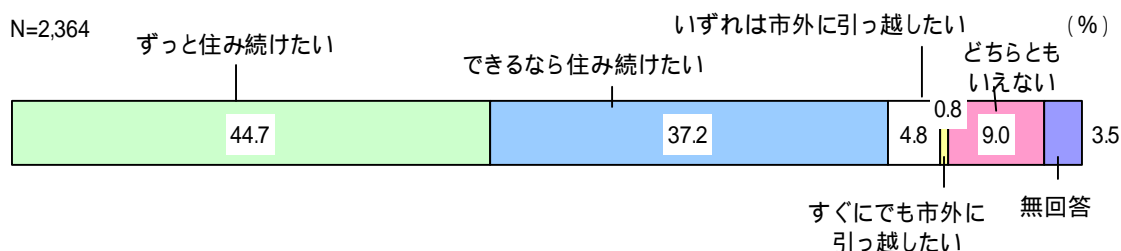
1. 富山市の住み良さ P10 参照

「まあ住み良い」という回答が 57.6% で最も高く、「住み良い」(26.8%) と合わせると 84.4% となり、「あまり住み良くない」「住みにくい」を合わせた 9.2% を大きく上回る。



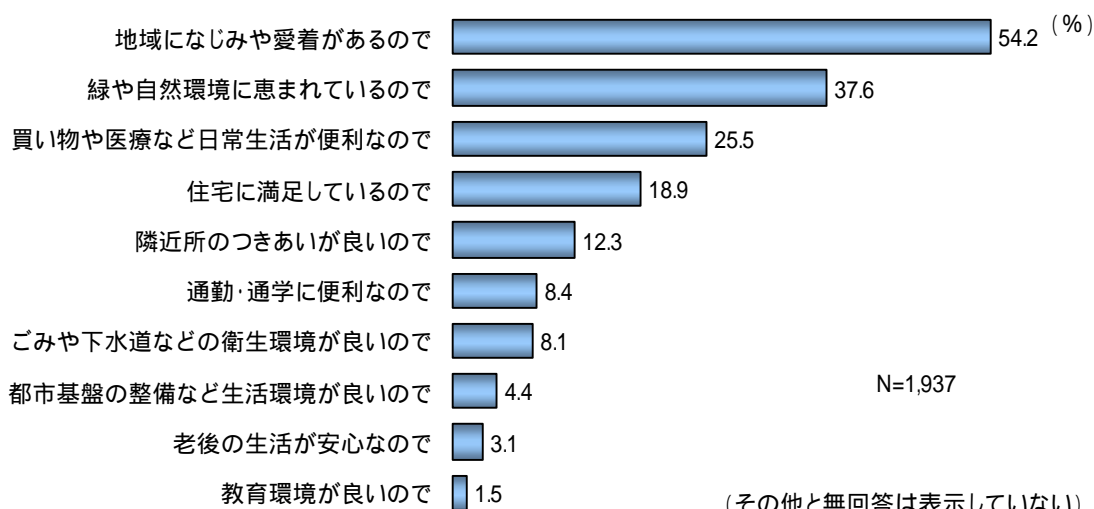
2. 富山市への定住意識 P12 参照

「ずっと住み続けたい」という回答が 44.7% で最も高く、「できるなら住み続けたい」(37.2%) と合わせると、81.9% となり、「いずれは市外に引っ越したい」「すぐにも市外に引っ越したい」を合わせた 5.6% を大きく上回る。



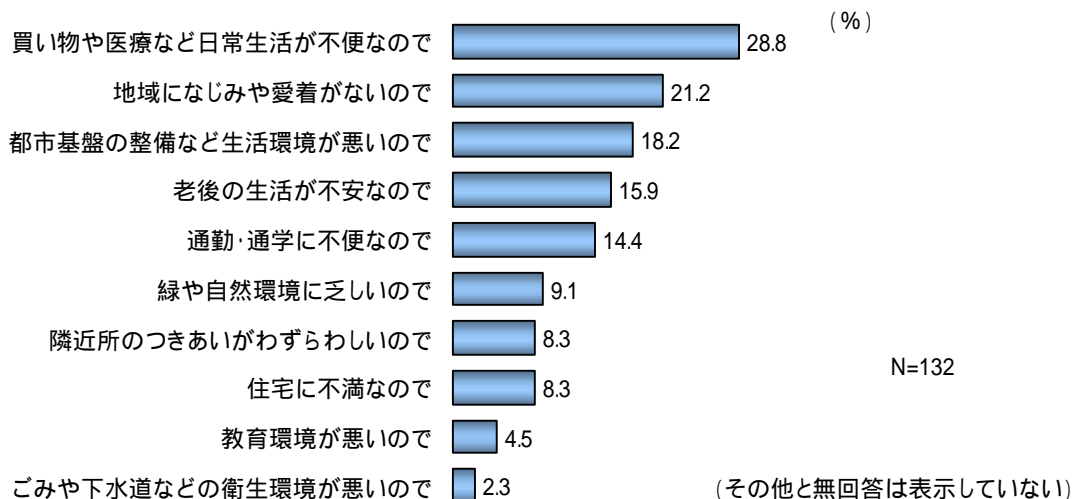
3. 富山市に住み続けたい理由 P14 参照

定住意識について「ずっと住み続けたい」「できるなら住み続けたい」と回答した人の住み続けたい理由としては、「地域になじみや愛着があるので」(54.2%) 「緑や自然環境に恵まれているので」(37.6%) 「買い物や医療など日常生活が便利なので」(25.5%) の順に挙げられている。



4 . 富山市外へ引っ越したい理由 P17 参照

定住意識について「いずれは市外に引っ越したい」「すぐにでも市外に引っ越したい」と回答した人の引っ越したい理由は、「買い物や医療など日常生活が不便なので」(28.8%)「地域になじみや愛着がないので」(21.2%)「都市基盤の整備など生活環境が悪いので」(18.2%)の順に挙げられている。



5 . 施策の満足度 P20 参照

総合計画の62の施策について市民の皆さんの満足度を6段階(満足、ほぼ満足、普通、やや不満、不満、わからない)で尋ねた。その結果を「満足」と「ほぼ満足」を合わせて『満足』、「やや不満」と「不満」を合わせて『不満』とした。これについてランキングしたもののうちそれぞれ10位までの項目は次のとおりである。

『満足』のランキング(上位10項目)

順位	施策	(%)
1位	快適な生活環境づくり(上下水道、動物愛護、地域の環境美化、墓地・斎場整備など)	28.3
2位	雪に強いまちづくり(除排雪体制強化など)	27.2
3位	消防・救急体制の整備	26.5
4位	公園・緑地の整備	25.8
5位	健康づくり活動の充実(健康情報の提供、健康相談・健康診査の充実など)	25.3
6位	賑わいと交流の都市空間の整備・充実(富山駅周辺、中心市街地の整備など)	23.5
7位	スポーツ・レクリエーション活動の充実(スポーツ教室・イベントの開催、体育施設の整備など)	23.2
8位	地域を結び生活を支える道路網の整備(国道、県道の整備促進、市道の整備推進など)	21.7
9位	市民の自主的な学習環境の充実(市民大学などの生涯学習、博物館など)	21.6
10位	市民・企業・行政の協働による環境負荷低減への取り組み(資源回収支援、ふるさと富山美化大作戦の実施など)	21.3

『不満』のランキング（上位 10 項目）

順位	施策	(%)
1位	拠点を結ぶ交通体系の再構築(公共交通の利便性の向上など)	46.5
2位	職員の意識改革と組織の活性化(多様な行政ニーズに対応できる市職員の育成など)	44.2
3位	歩いて暮らせるまちづくりの推進(コンパクトなまちの実現、公共交通の活用など)	42.5
4位	計画的で効率的な行財政運営の推進(健全財政の維持、職員数の適正化など)	40.8
5位	公共交通の利用促進(公共交通利用意義の啓発、ノーマイカーデーの実践など)	39.1
6位	勤労者福祉の向上(就業環境の向上、仕事と家庭が両立できる環境づくりなど)	38.3
7位	個性や能力を生かした多様な雇用機会の創出(障害者・高齢者・女性等の就労支援など)	36.5
8位	エネルギーの有効活用(太陽光発電などの導入、省エネルギー対策など)	35.7
9位	保健・医療・福祉の連携、充実(市民病院の充実、救急医療体制など)	33.8
10位	賑わいと交流の都市空間の整備・充実(富山駅周辺、中心市街地の整備など)	33.5

6 . 今後のまちづくりの重点 P36 参照

総合計画の 62 の施策のうち、最も重点的に取り組むべきものとして挙げられた施策のうち 10 位までの項目は次のとおりである。

順位	施策	(%)
1位	計画的で効率的な行財政運営の推進(健全財政の維持、職員数の適正化など)	7.5
2位	高齢者・障害者への支援(介護サービス基盤整備など)	6.7
3位	子育て環境の充実(保育サービス、放課後・地域児童健全育成事業など)	6.0
4位	職員の意識改革と組織の活性化(多様な行政ニーズに対応できる市職員の育成など)	5.6
5位	保健・医療・福祉の連携、充実(市民病院の充実、救急医療体制など)	5.5
6位	一人ひとりが尊重される平和な社会づくり(人の個性と創造性の発揮、自然災害や事故・事件への対応など)	5.3
7位	歩いて暮らせるまちづくりの推進(コンパクトなまちの実現、公共交通の活用など)	3.7
8位	拠点を結ぶ交通体系の再構築(公共交通の利便性の向上など)	2.5
9位	災害に強いまちづくり(災害への対応機能の強化など)	2.4
10位	勤労者福祉の向上(就業環境の向上、仕事と家庭が両立できる環境づくりなど)	2.3
10位	エネルギーの有効活用(太陽光発電などの導入、省エネルギー対策など)	2.3

7. 市民の普段の取り組み P50 参照

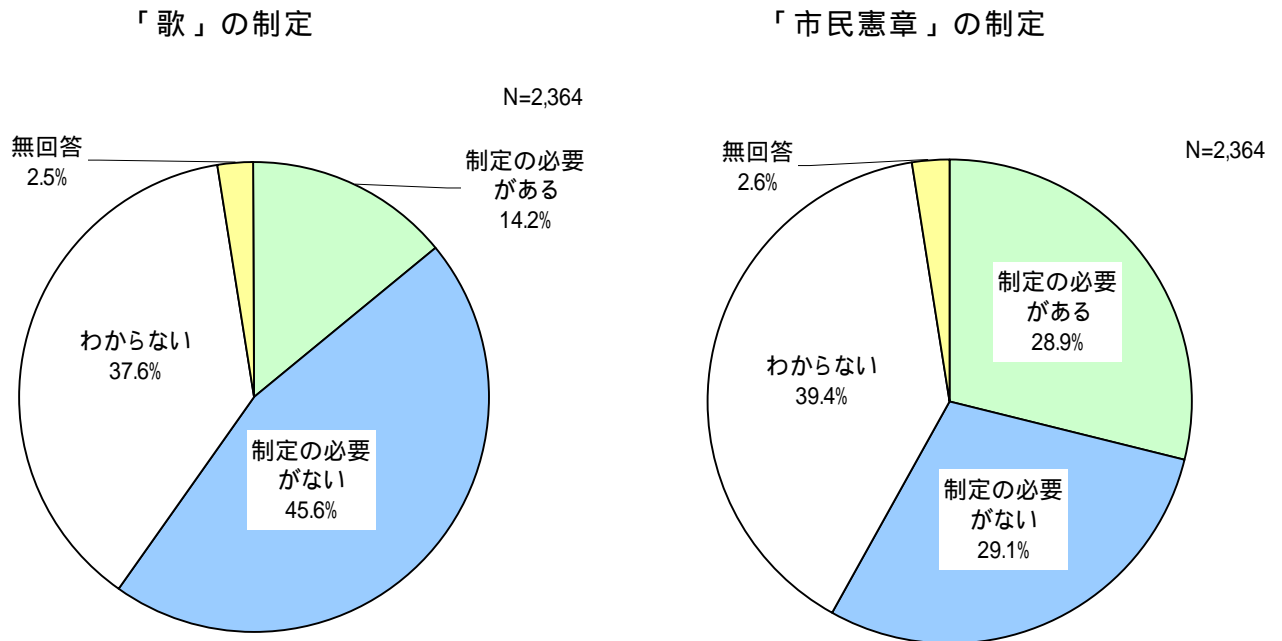
市民が普段から行っている取り組みについて、調査した 26 項目の順位は次のとおりである。



8 . 市の歌および市民憲章 P54 参照

市の「歌」の制定の必要性について「制定の必要がある」が 14.2%に対し、「制定の必要がない」が 45.6%である。

一方、「市民憲章」の制定の必要性については、「制定の必要がある」が 28.9%、「制定の必要がない」が 29.1%となっている。



調査結果の分析

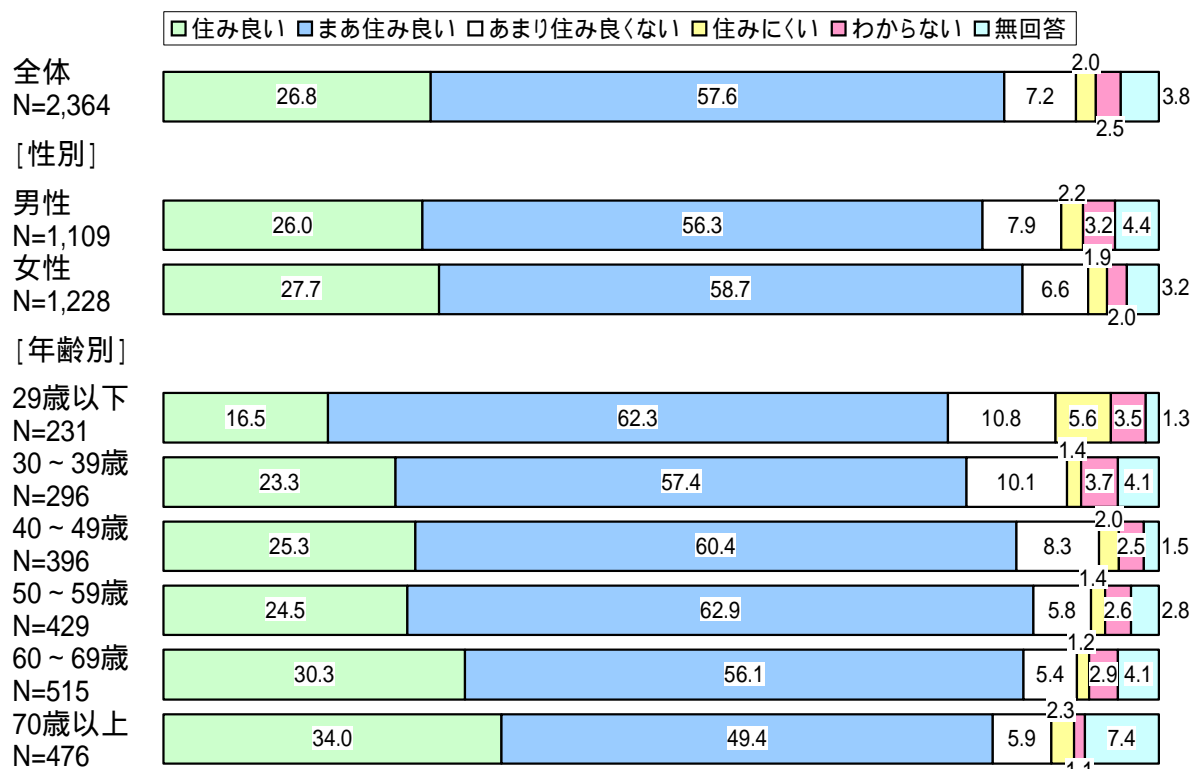
1. 富山市の住み良さ

問1 あなたにとって富山市は、どの程度住み良いですか。

8割以上の方は「住み良い」「まあ住み良い」と感じている

- ・ 「まあ住み良い」という回答が57.6%と最も高く、「住み良い」(26.8%)と合わせると84.4%となり、「あまり住み良くない」(7.2%)「住みにくい」(2.0%)を合わせた9.2%を大きく上回っている。
- ・ 性別に見ると「住み良い」と「まあ住み良い」を合わせると、男性では82.3%の人が、女性では86.4%の人が「住み良い」「まあ住み良い」と回答している。一方、「あまり住み良くない」と「住みにくい」を合わせると、男性が10.1%、女性が8.5%となっており、女性の方が富山市を住み良いと感じている割合が若干高い。
- ・ 年齢別に見ると、概ね年齢が高くなるほど「住み良い」と回答する割合が高くなっており、29歳以下の16.5%に対し60歳以上では30%を超える。

[性別・年齢別] 富山市の住み良さ (%)



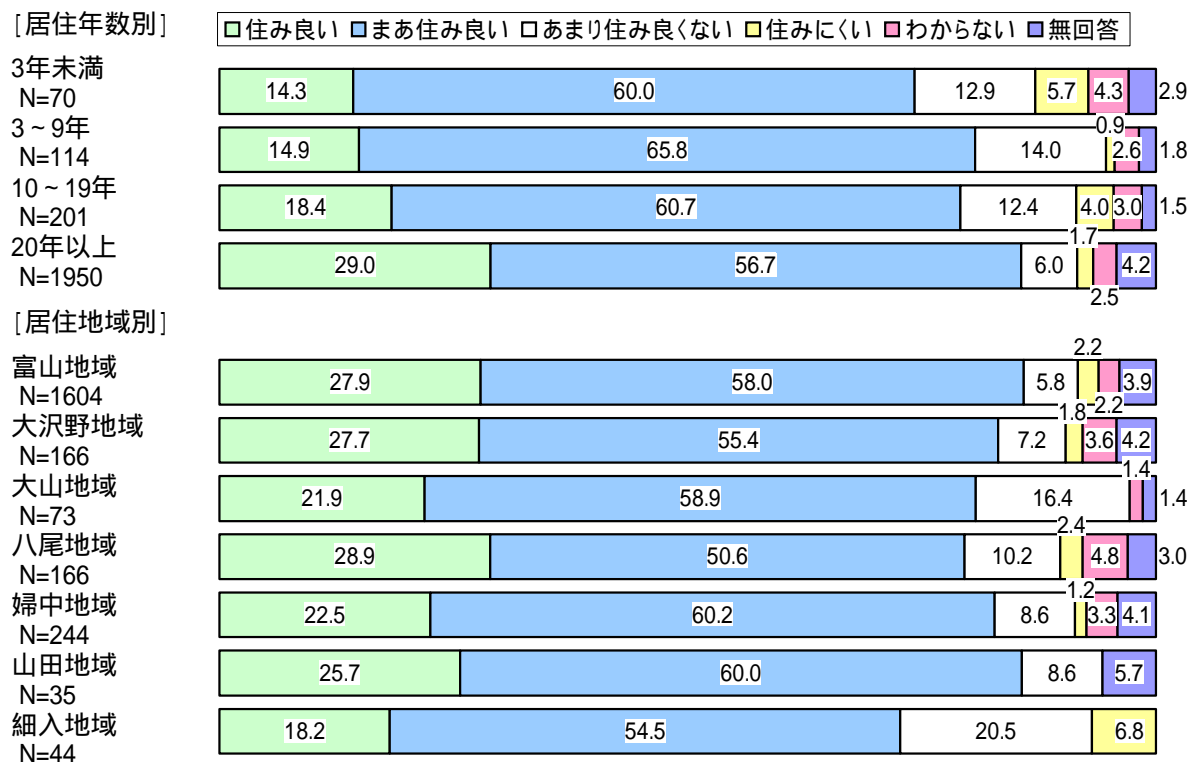
- ・ 前回調査（平成 17 年調査）と比較すると、傾向はほとんど変わらないが、「住み良い」「まあ住み良い」も「あまり住み良くない」「住みにくい」も若干割合が低くなっている。

富山市の住み良さの前回比較 (%)



- ・ 居住年数別には、年数が長い人ほど「住み良い」とした割合が高い。
- ・ 居住地域別には、「住み良い」「まあ住み良い」と回答した割合は、富山地域が最も高く 85.9% である。72.7% で最も低い細入地域では、「あまり住み良くない」と回答した人は 2 割を超えている。

[居住年数・居住地域別] 富山市の住み良さ (%)



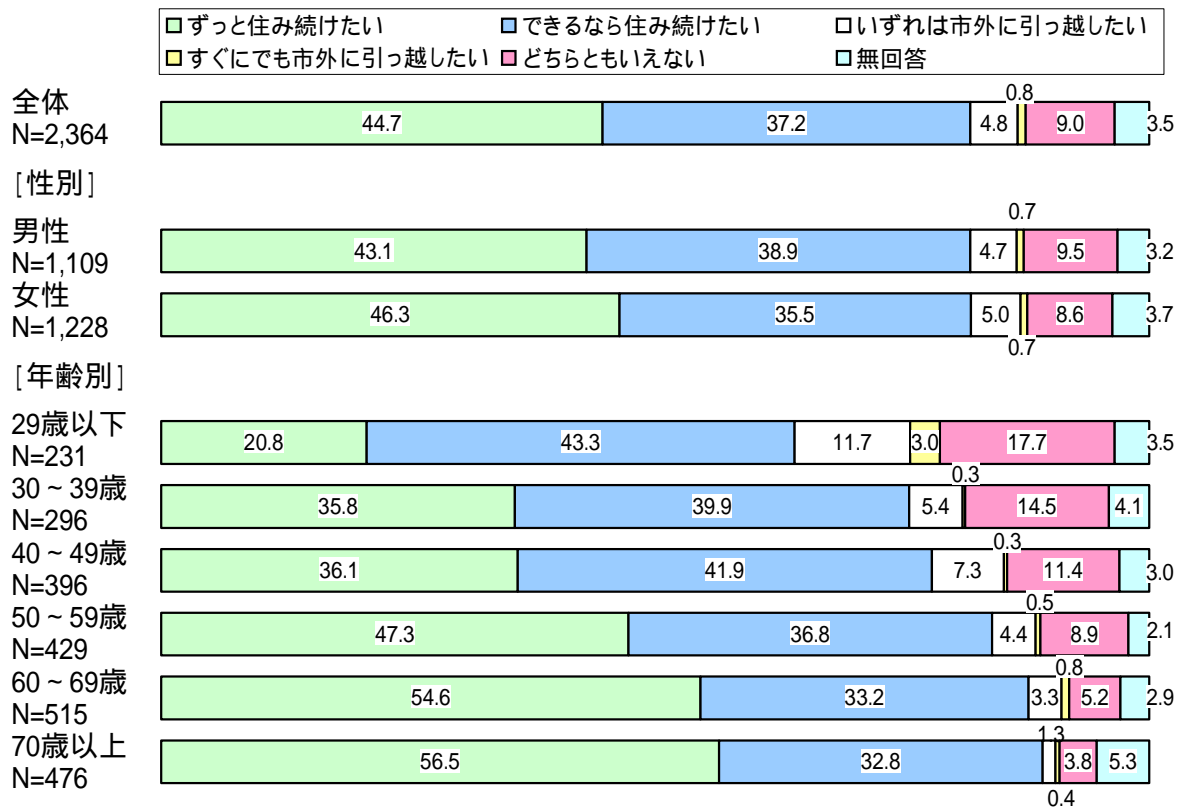
2. 富山市への定住意識

問2 あなたは、今後も富山市に住み続けたいと思いますか。

8割以上が「ずっと住み続けたい」「できるなら住み続けたい」と回答

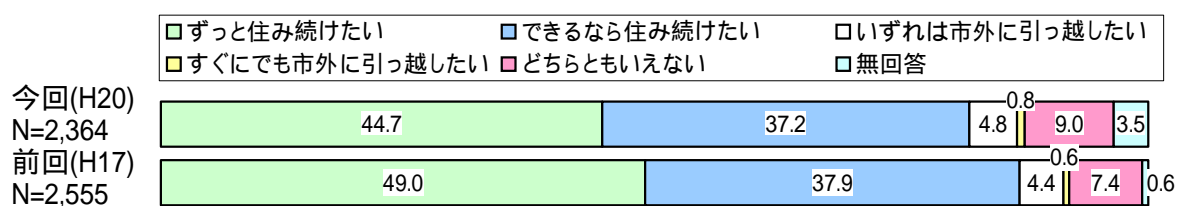
- ・ 「ずっと住み続けたい」という回答が44.7%で最も高く、「できるなら住み続けたい」(37.2%)と合わせると富山市での定住を希望する人の割合は81.9%となり、「いずれは市外に引っ越したい」(4.8%)と「すぐにでも市外に引っ越したい」(0.8%)を合わせた5.6%を大きく上回る。これは性別に見ても大きな違いはない。
- ・ 年齢別には、年齢が高くなるほど定住を希望する割合が高い。

[性別・年齢別] 定住意識 (%)



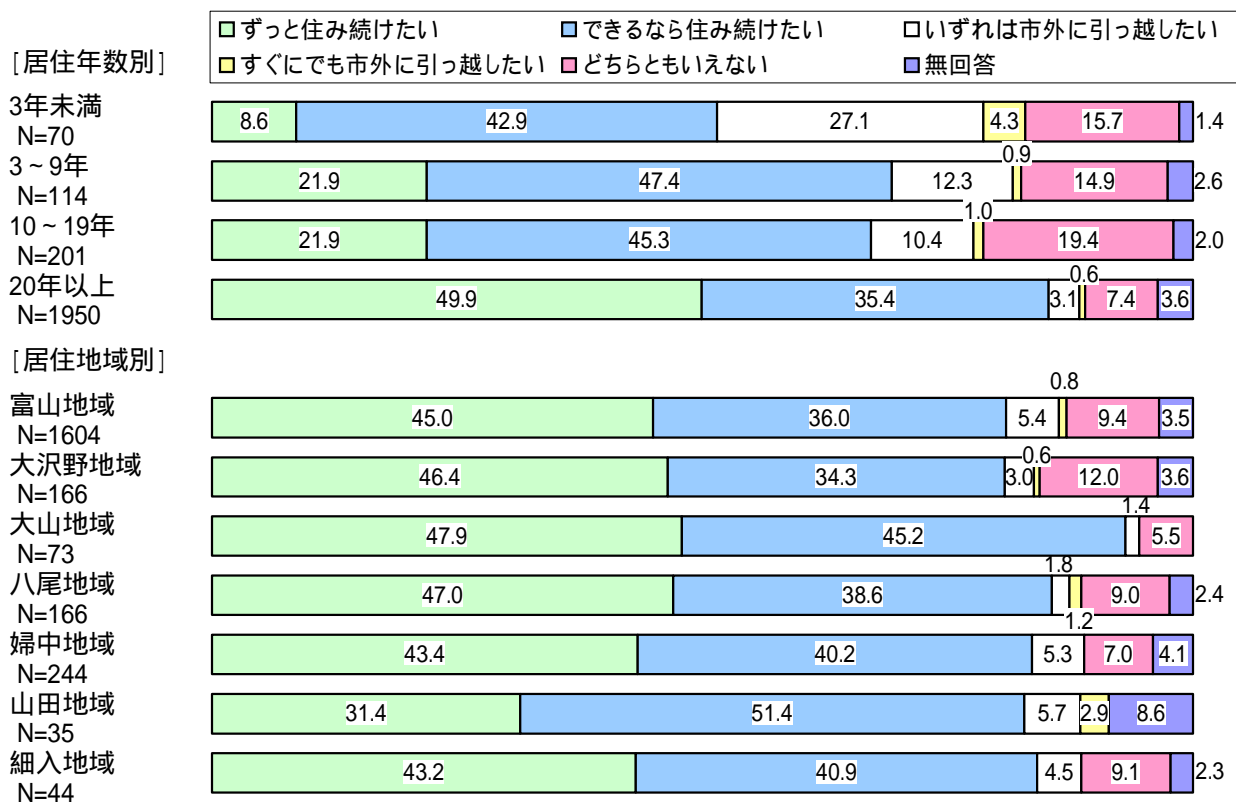
- ・ 前回の調査と比較すると、定住意識は若干低くなっている。

定住意識の前回比較 (%)



- ・ 居住年数別に見ると、20年以上の人では約半数が「ずっと住みたい」(49.9%)としており、「できるなら住みたい」(35.4%)と合わせると、85.3%の人が「ずっと住みたい」「できるなら住みたい」としている。
- ・ 居住地域別では、定住意識は大山地域が最も高く、93.1%の人が「ずっと住みたい」「できるなら住みたい」としている。

[居住年数・居住地域別] 定住意識 (%)



- ・ 問1で「住み良い」と回答した人のうち、80.3%の人が「ずっと住みたい」と回答しており、「できるなら住みたい」と合わせると98%が定住志向である。一方、「住みにくい」と回答した人の中でも29.1%が「ずっと住みたい」または「できるなら住みたい」と回答している。

「住み良さ」×「定住意識」 (%)

	ずっと住みたい	できるなら住みたい	いずれは市外に引っ越したい	すぐにも市外に引っ越したい	どちらともいえない	無回答
住み良い (N=634)	80.3	17.7	0.6	-	0.8	0.6
まあ住み良い (N=1,362)	37.2	49.5	4.4	0.1	7.3	1.4
あまり住み良くない (N=170)	7.1	35.3	22.4	2.4	31.2	1.8
住みにくい (N=48)	8.3	20.8	12.5	22.9	31.3	4.2
わからない (N=60)	10.0	21.7	8.3	1.7	56.7	1.7

3. 富山市に住み続けたい理由

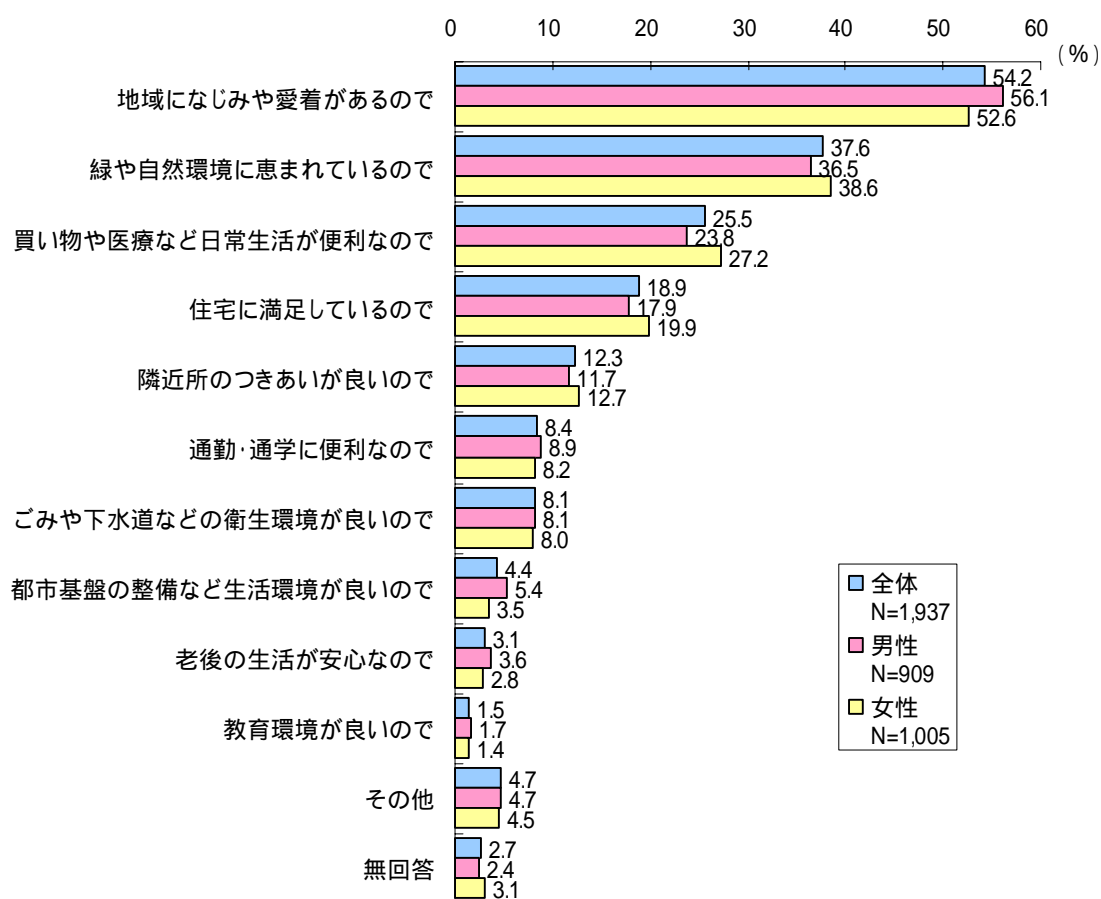
問3 問2で「1 ずっと住み続けたい」あるいは「2 できるなら住み続けたい」を選んだ方にお伺いします。

富山市に住み続けたい主な理由は何ですか。(複数回答: 2)

「地域への愛着」や「自然環境」が定住意識を高めている

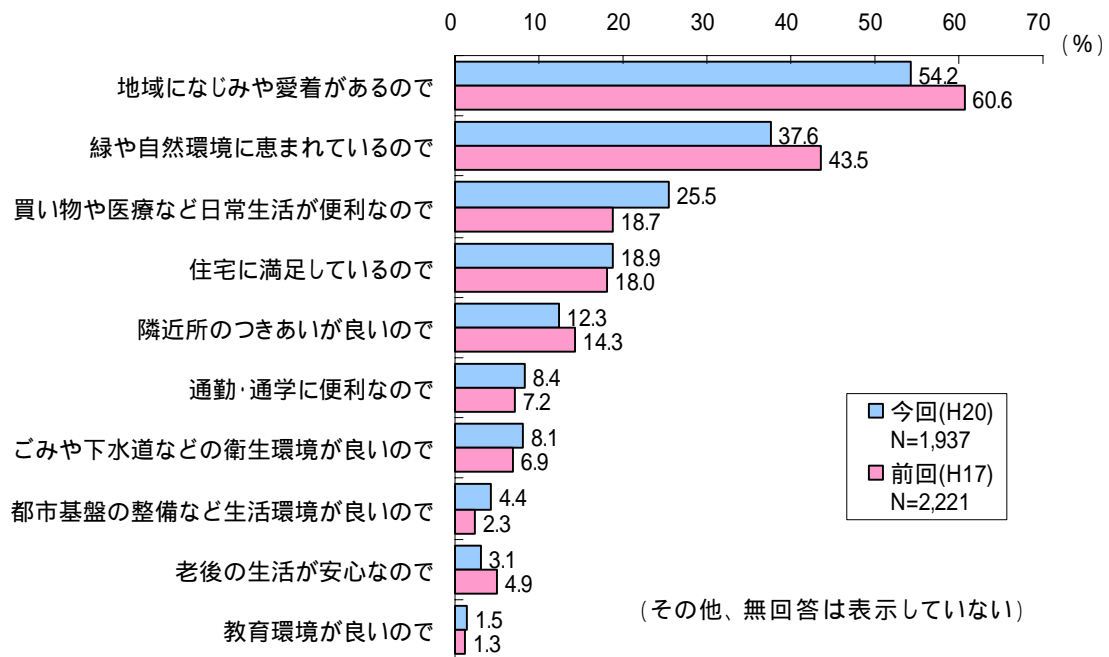
- ・ 「住み続けたい」理由としては、「地域になじみや愛着があるので」(54.2%)、「緑や自然環境に恵まれているので」(37.6%)、「買い物や医療など日常生活が便利なので」(25.5%)の順に挙げられ、性別にもほとんど差はない。

[性別] 住み続けたい理由



- ・ 前回調査との比較では、回答割合にやや違いはあるものの、順位はほとんど変わらない。しかし前回は「地域になじみや愛着があるので」(今回:54.2%、前回:60.6%、以下同様)「緑や自然環境に恵まれているので」(37.6%、43.5%)の回答が特出していたが、今回調査では第3位の「買い物や医療など日常生活が便利なので」(25.5%、18.7%)という回答が前回よりも高くなっている。

住み続けたい理由の前回比較



- ・ 年齢別に見ても、順位に全体との違いはあまり見られない。しかし、その回答割合は年齢によって特徴が見られる。29歳以下では、他の年齢に比べて「地域になじみや愛着があるので」(70.9%)と「緑や自然環境に恵まれているので」(50.0%)が特出した回答となっている。
- ・ 居住年数別に見ると、3年未満の人は他の居住年数の人に比べ、「通勤・通学に便利なので」を理由に挙げる割合が高い。
- ・ 地域別に見ると、富山地域と婦中地域では、他の地域に比べ「買い物や医療など日常生活が便利なので」を理由に挙げる割合が高い。また、大山地域と細入地域では、他の地域に比べ「緑や自然環境に恵まれているので」を理由に挙げる割合が高い。

[年齢別・居住年数別・居住地域別] 住み続けたい理由

(%)

	該当者数 (人)	地域の なじみや 愛着が ある	隣近所 のつき あいが 良い	老後の 生活が 安心な ので	住宅に 満足し ている ので	通勤・ 通学に 便利な ので	活がい 物や医 療など 日常生 活が便 利なな ので	買物や 医療な ど日常 生活が 便利な ので	都市基 盤の整 備など 生活環 境が良 いので	ごみや 下水道 などの 衛生環 境が良 いので	緑や自 然環境 に恵ま れてい るので	教育環 境が良 いので	その他	無回答
[年齢別]														
29歳以下	148	70.9	6.8	-	12.8	9.5	13.5	1.4	3.4	50.0	2.0	4.7	1.4	
30～39歳	224	58.9	8.5	0.4	17.4	18.3	20.5	4.0	1.3	38.8	3.6	5.8	1.8	
40～49歳	309	57.9	7.8	1.6	17.2	16.5	25.2	5.8	1.6	35.3	2.9	6.5	1.9	
50～59歳	361	51.5	9.7	1.9	18.8	11.1	24.1	5.0	8.3	40.4	0.8	5.3	3.9	
60～69歳	452	49.1	13.3	3.1	23.2	2.0	30.1	4.2	12.2	39.6	0.7	4.0	3.5	
70歳以上	425	51.1	20.7	8.0	18.8	1.9	28.9	4.2	13.2	29.6	0.7	2.6	2.6	
[居住年数別]														
3年未満	36	38.9	11.1	2.8	16.7	27.8	25.0	5.6	5.6	38.9	2.8	5.6	2.8	
3～9年	79	27.8	7.6	2.5	21.5	19.0	26.6	5.1	2.5	38.0	12.7	6.3	2.5	
10～19年	135	40.7	8.9	1.5	15.6	17.0	29.6	4.4	9.6	37.0	3.7	3.7	3.7	
20年以上	1,664	57.0	12.8	3.4	19.2	6.9	25.2	4.3	8.2	37.6	0.8	4.5	2.6	
[居住地域別]														
富山地域	1,299	52.4	10.6	3.6	21.2	8.9	29.6	5.2	8.7	34.1	1.8	4.2	2.5	
大沢野地域	134	54.5	17.2	2.2	9.7	6.0	16.4	3.0	9.0	48.5	2.2	6.7	2.2	
大山地域	68	61.8	10.3	-	10.3	5.9	5.9	4.4	16.2	54.4	-	7.4	2.9	
八尾地域	142	66.2	20.4	2.1	18.3	2.8	12.7	2.1	5.6	42.3	0.7	3.5	0.7	
婦中地域	204	52.5	13.7	2.5	18.1	13.7	27.9	2.0	1.5	37.7	0.5	5.9	4.9	
山田地域	29	65.5	10.3	3.4	6.9	10.3	6.9	3.4	10.3	48.3	-	3.4	6.9	
細入地域	37	64.9	16.2	2.7	8.1	2.7	2.7	2.7	10.8	64.9	-	2.7	5.4	

は、各属性での第1位の回答

4. 富山市外へ引っ越したい理由

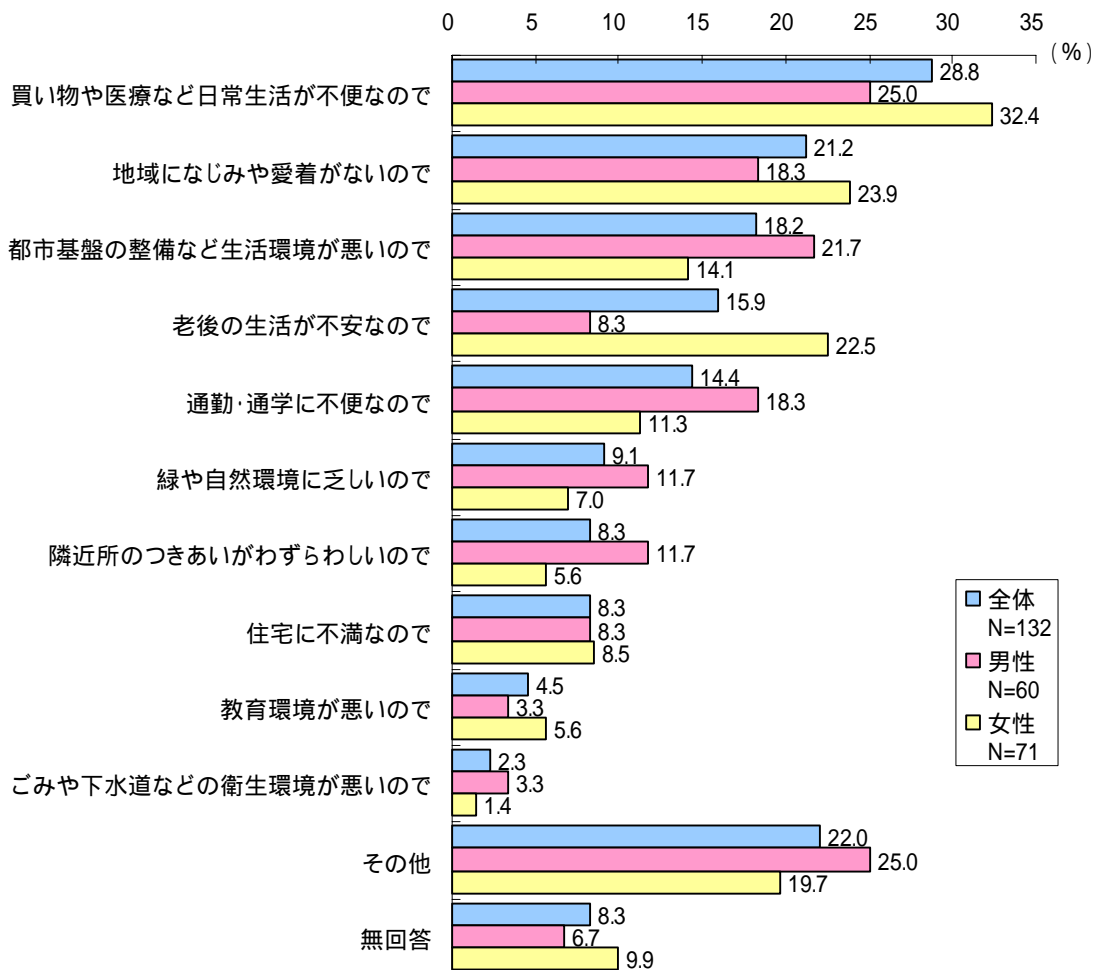
問4 問2で「3 いずれは市外に引っ越したい」あるいは「4 すぐにでも市外に引っ越したい」を選んだ方にお伺いします。

富山市以外に引っ越したい主な理由は何ですか。(複数回答: 2)

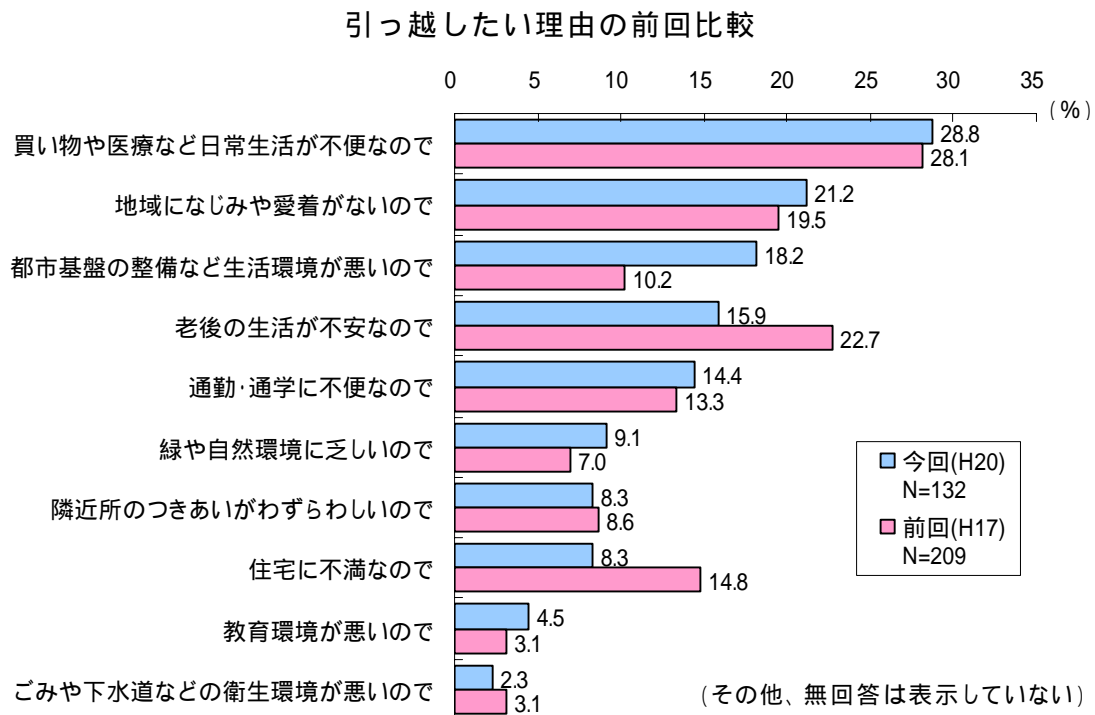
「日常生活の不便さ」や「愛着のなさ」が引っ越したい主な理由

- ・ 「買い物や医療など日常生活が不便なので」が28.8%で引っ越したい理由の一番に挙げられる。また、「住み続けたい」理由では「地域になじみや愛着があるので」が第一に挙げられていたが、反対に引っ越したい理由では「地域になじみや愛着がないので」が2番目に挙げられている。
- ・ 性別には、やや違いが見られ、「買い物や医療など日常生活が不便なので」(男性:25.0%、女性:32.4%、以下同様)「地域になじみや愛着がないので」(18.3%、23.9%)や「老後の生活が不安なので」(8.3%、22.5%)などが女性の回答割合が高く、「都市基盤の整備など生活環境が悪いので」(21.7%、14.1%)や「通勤・通学に不便なので」(18.3%、11.3%)「隣近所のつきあいがわずらわしいので」(11.7%、5.6%)などでは男性の回答割合が高い。

[性別] 引っ越したい理由



- 前回の調査と比較すると、上位 2 項目はほぼ変わらないが、前回高い割合であった「老後の生活が不安なので」(今回:15.9%、前回:22.7%、以下同様)や「住宅に不満なので」(8.3%、14.8%)はポイントを大きく下げている。一方で、「都市基盤の整備など生活環境が悪いので」(18.2%、10.2%)は前回は大きく上回る。



- 年齢別に見ると全体の第一に挙げられている「買い物や医療など日常生活が不便なので」を理由に挙げているのは 29 歳以下、30 歳代、60 歳代であり、年齢によって回答にばらつきがみられる。
- 居住年数別に見ると、3 年未満では「地域になじみや愛着がないので」「買い物や医療など日常生活が不便なので」「都市基盤の整備など生活環境が悪いので」という回答に分かれる。一方、3~9 年、10~19 年の人では、「通勤・通学に不便なので」が第一に挙げられている。
- 居住地域別に見ると、地域によっては回答者の数が極端に少ないため、地域ごとの特徴とは言い難いが、富山地域と婦中地域ではややポイントは低いものの、全体的にどの地域も「買い物や医療など日常生活が不便なので」ということが理由の第一に挙げられている。

[年齢別・居住年数別・居住地域別] 引っ越したい理由

(%)

	該当者数 (人)	地域の なじみや 愛着が ない	隣の つきあ いがわ ず	老後の 生活が 不安な ので	住宅に 不満な ので	通勤・ 通学に 不便な ので	活がい 物や医 療など 日常生 活が不 便な ので	買物や 医療な ど日常 生活が 悪いの ので	都市基 盤の整 備など 生活環 境が悪い ので	ごみや 下水道 などの 衛生環 境が悪い ので	緑や自 然環境 に乏しい ので	教育環 境が悪い ので	その他	無回答
[年齢別]														
29歳以下	34	14.7	2.9	2.9	2.9	23.5	29.4	29.4	-	2.9	11.8	20.6	11.8	
30～39歳	17	17.6	5.9	5.9	-	-	23.5	5.9	5.9	-	11.8	58.8	5.9	
40～49歳	30	30.0	13.3	16.7	10.0	23.3	26.7	26.7	-	13.3	-	10.0	3.3	
50～59歳	21	28.6	9.5	28.6	4.8	4.8	23.8	4.8	4.8	14.3	-	28.6	9.5	
60～69歳	21	19.0	9.5	14.3	28.6	14.3	38.1	9.5	-	9.5	-	9.5	14.3	
70歳以上	8	12.5	12.5	62.5	-	-	37.5	12.5	12.5	25.0	-	12.5	-	
[居住年数別]														
3年未満	22	40.9	-	-	-	-	40.9	31.8	4.5	4.5	4.5	27.3	4.5	
3～9年	15	26.7	6.7	6.7	6.7	33.3	13.3	-	-	-	6.7	40.0	6.7	
10～19年	23	13.0	8.7	17.4	-	21.7	17.4	8.7	-	-	8.7	34.8	17.4	
20年以上	71	16.9	11.3	22.5	14.1	12.7	32.4	19.7	2.8	15.5	2.8	12.7	7.0	
[居住地域別]														
富山地域	99	22.2	7.1	13.1	7.1	13.1	25.3	21.2	3.0	10.1	5.1	26.3	6.1	
大沢野地域	6	33.3	16.7	33.3	-	16.7	66.7	16.7	-	-	-	-	-	
大山地域	1	-	-	-	-	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-	
八尾地域	5	40.0	20.0	20.0	-	20.0	40.0	-	-	20.0	-	-	20.0	
婦中地域	13	15.4	7.7	7.7	15.4	23.1	23.1	-	-	7.7	7.7	15.4	23.1	
山田地域	3	-	33.3	33.3	-	-	33.3	33.3	-	-	-	-	33.3	
細入地域	2	-	-	50.0	-	-	100.0	-	-	-	-	50.0	-	

は、各属性での第1位の回答

5 . 施策の満足度

問5 あなたは市の施策に対してどの程度満足していますか。

富山市は、総合計画の中で5つの「まちづくりの目標」のもと、62の施策を設定している。この施策それぞれについての満足度を尋ねた。

なお以下では、『満足』 = 「満足」 + 「ほぼ満足」、『不満』 = 「やや不満」 + 「不満」と定義する。

全体のランキング

62の施策項目について『満足』『不満』とした順位は次のとおりである。

- ・ 『満足』の上位にあるのは、「快適な生活環境づくり」「雪に強いまちづくり」「消防・救急体制の整備」などの施策である。

『満足』(1位～15位)



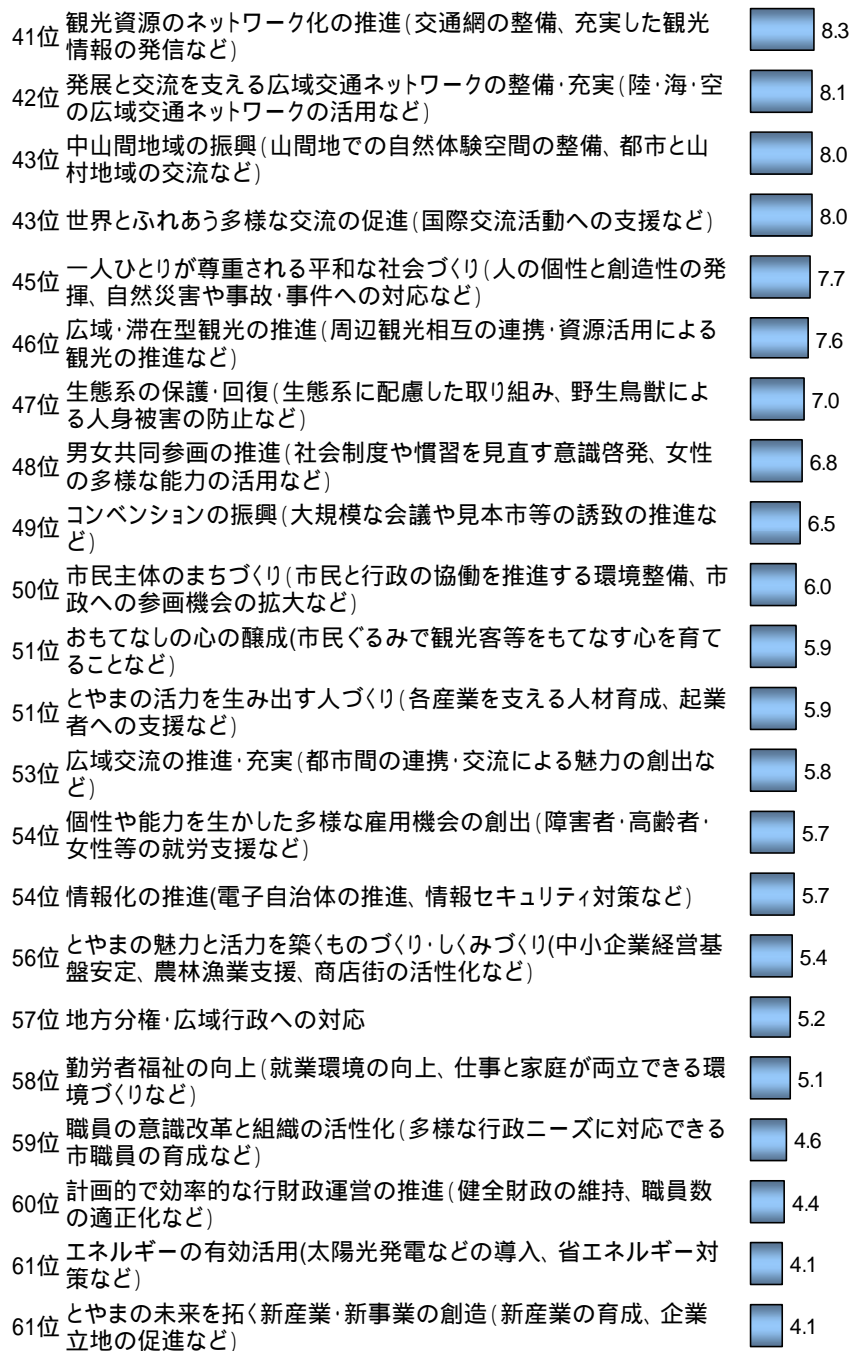
『満足』(16位～40位)

(%)



『満足』(41位～61位)

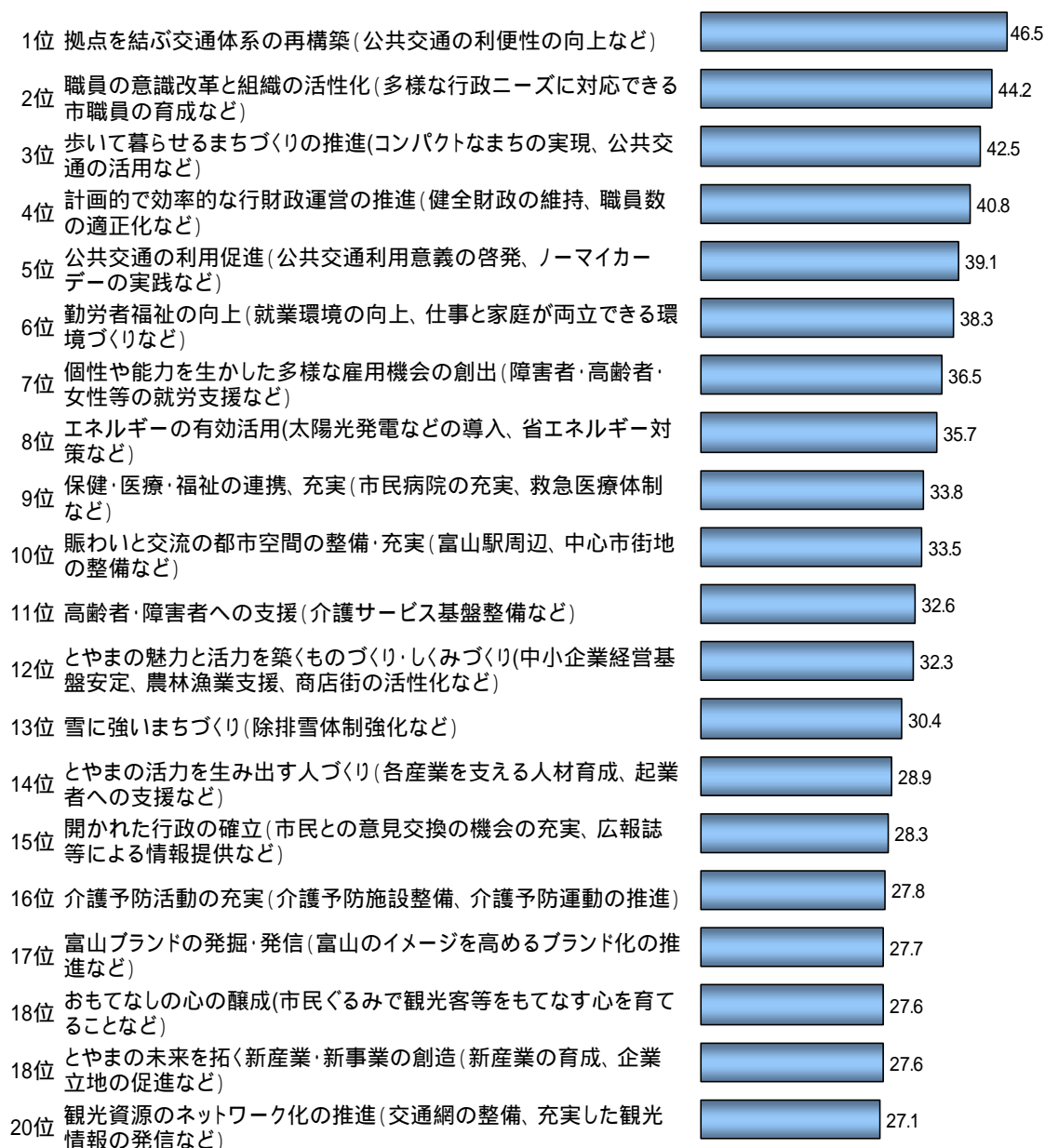
(%)



- ・ 『不満』の上位には、「拠点をつなぐ交通体系の再構築」「歩いて暮らせるまちづくりの推進」「公共交通の利用促進」などの交通を中心とした都市環境に関する施策と、「職員の意識改革と組織の活性化」「計画的で効率的な行財政運営の推進」などの市政に関する施策が挙げられている。
- ・ 「賑わいと交流の都市空間の整備・充実」は『満足』で6位に挙げられているにもかかわらず、『不満』でも10位に挙げられる。

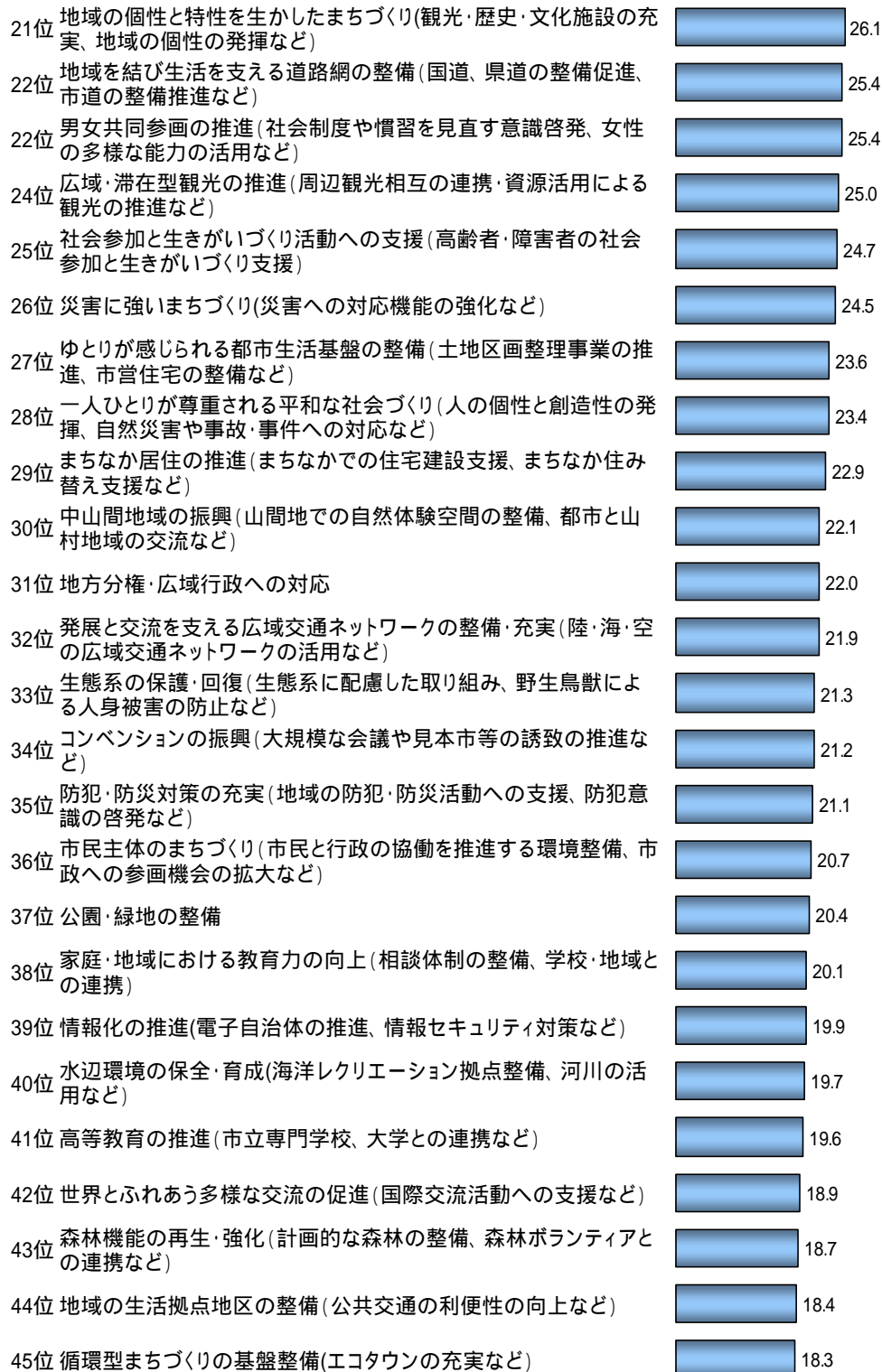
『不満』(1位～20位)

(%)



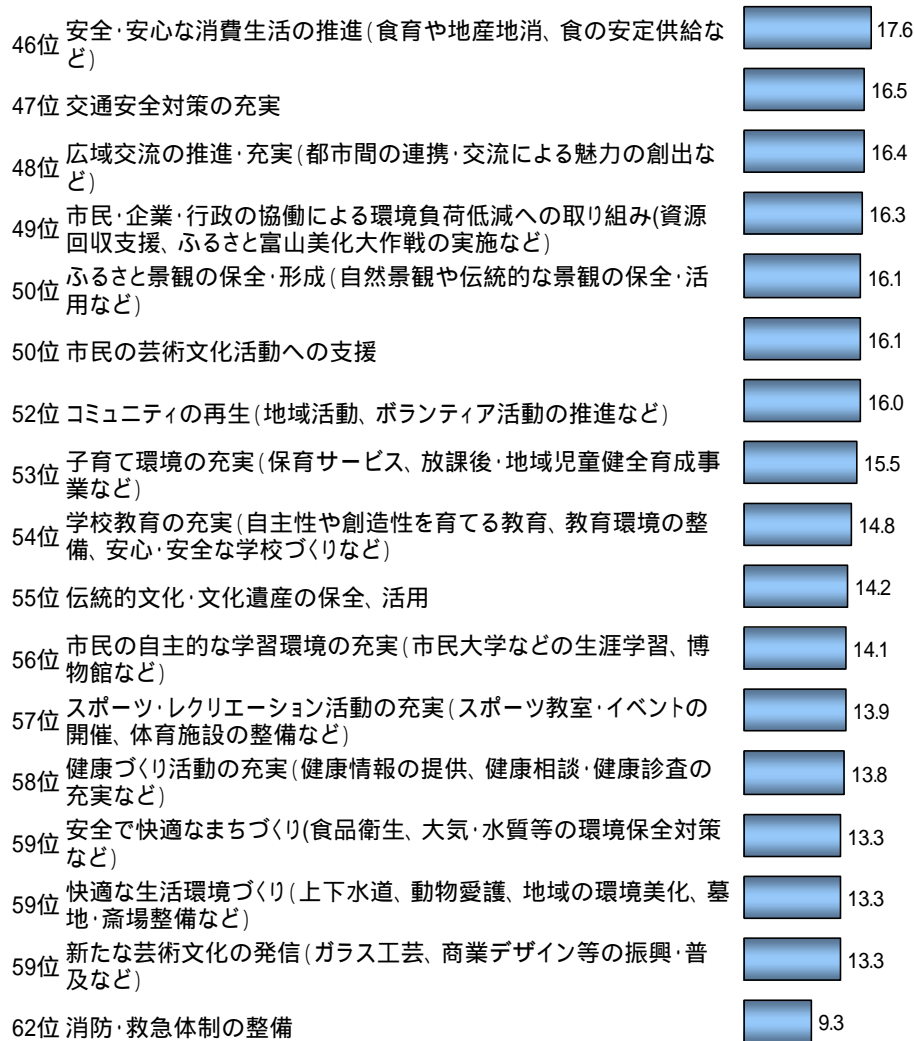
『不満』(21位～45位)

(%)



『不満』(46位～62位)

(%)



まちづくりの目標ごとの状況

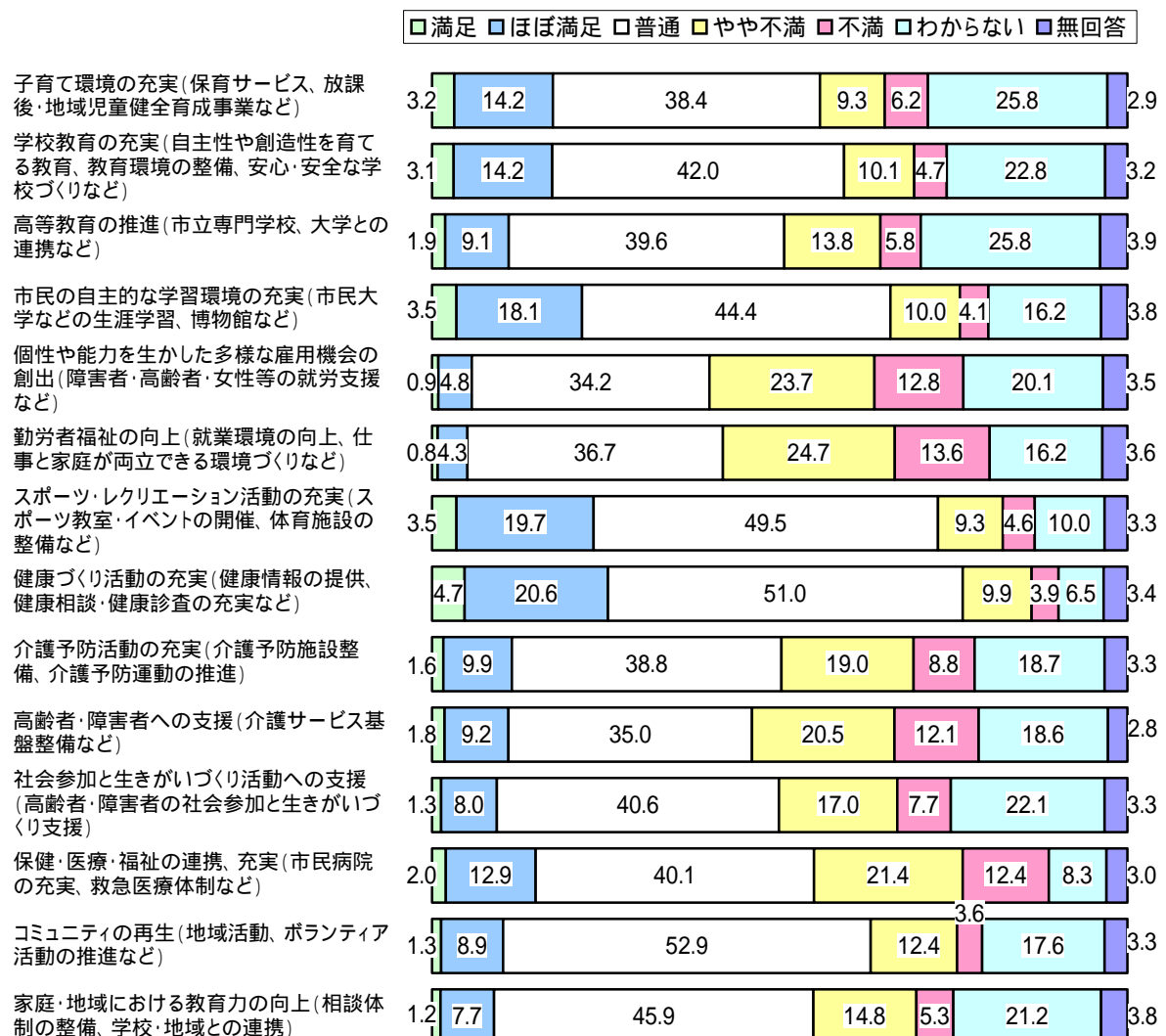
総合計画に掲げた5つの「まちづくりの目標」ごとに、施策の満足度の状況をもてみる。

人が輝き安心して暮らせるまち

雇用や福祉に関する不満が高い

- 『満足』は、「健康づくり活動の充実」(25.3%)や「スポーツ・レクリエーション活動の充実」(23.2%)「市民の自主的な学習環境の充実」(21.6%)で比較的割合が高い。
- 『不満』は「勤労者福祉の向上」(38.3%)「個性や能力を生かした多様な雇用機会の創出」(36.5%)など雇用に関することや、「保健・医療・福祉の連携、充実」(33.8%)「高齢者・障害者への支援」(32.6%)などの福祉に関する施策について割合が高い。

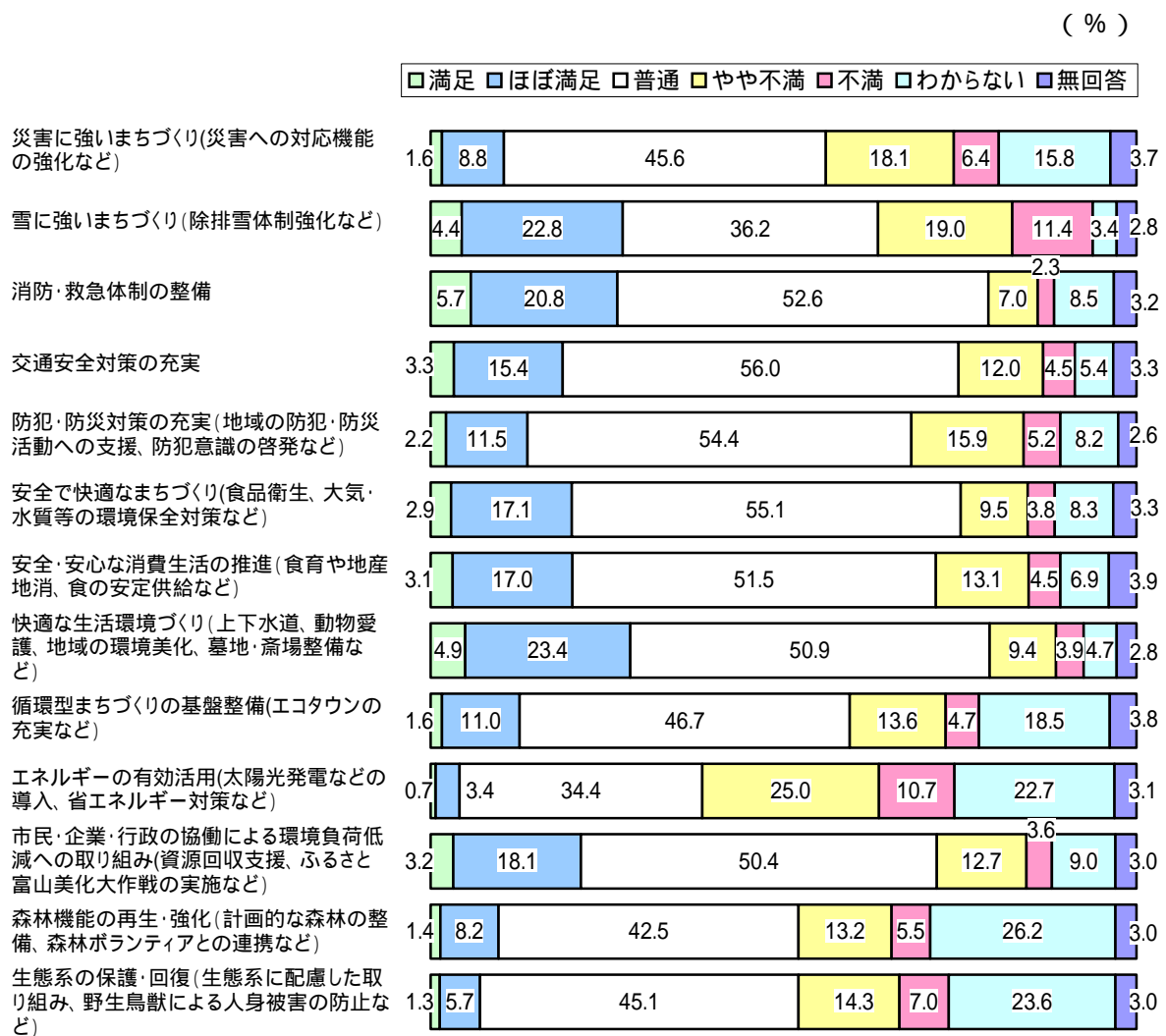
(%)



すべてにやさしい安全なまち

快適な生活環境等に満足

- 『満足』の割合が高い施策は、「快適な生活環境づくり」(28.3%)「雪に強いまちづくり」(27.2%)「消防・救急体制の整備」(26.5%)などである。
- 『不満』の割合が高い施策は、「エネルギーの有効活用」(35.7%)「災害に強いまちづくり」(24.5%)である。『満足』の割合も比較的高かった「雪に強いまちづくり」は『不満』も30.4%と高い割合である。

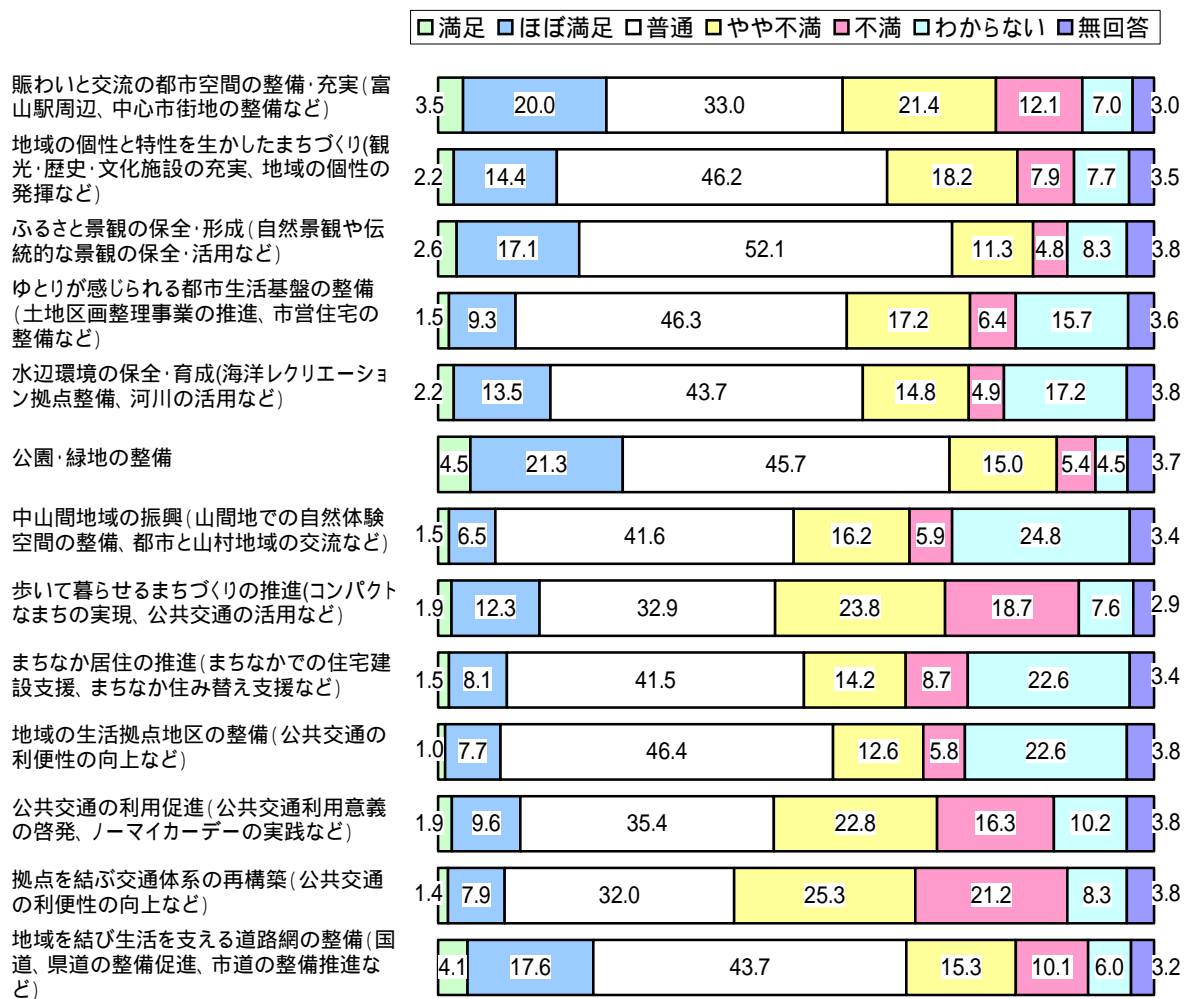


都市と自然が調和した潤いが実感できるまち

交通体系等への不満

- ・ 「公園・緑地の整備」(25.8%)や「賑わいと交流の都市空間の整備・充実」(23.5%) 「地域を結び生活を支える道路網の整備」(21.7%)などが『満足』の割合が高い。
- ・ 「拠点を結ぶ交通体系の再構築」(46.5%) 「歩いて暮らせるまちづくりの推進」(42.5%) 「公共交通の利用促進」(39.1%)などが『不満』の割合が高い。

(%)

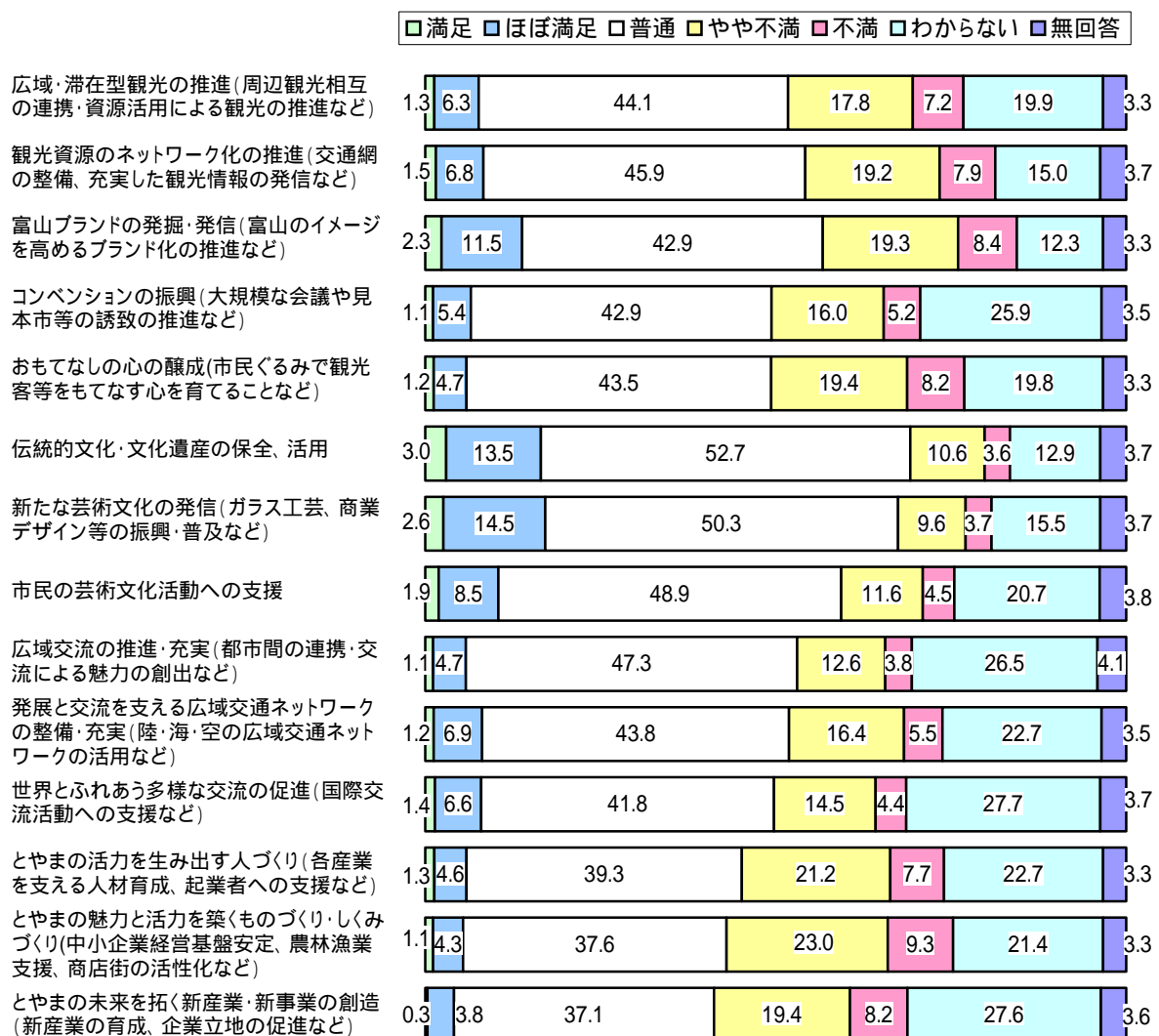


個性と創造性に満ちた活力あふれるまち

文化や芸術に関する満足度が比較的高い

- この分野では、満足度が高い施策はあまりないが、その中でも「新たな芸術文化の発信」(17.1%)「伝統的文化・文化遺産の保全、活用」(16.5%)などが『満足』の割合が高い。
- 『不満』が高い施策は、「とやまの魅力と活力を築くものづくり・しくみづくり」(32.3%)「とやまの活力を生み出す人づくり」(28.9%)「富山ブランドの発掘・発信」(27.7%)などである。

(%)

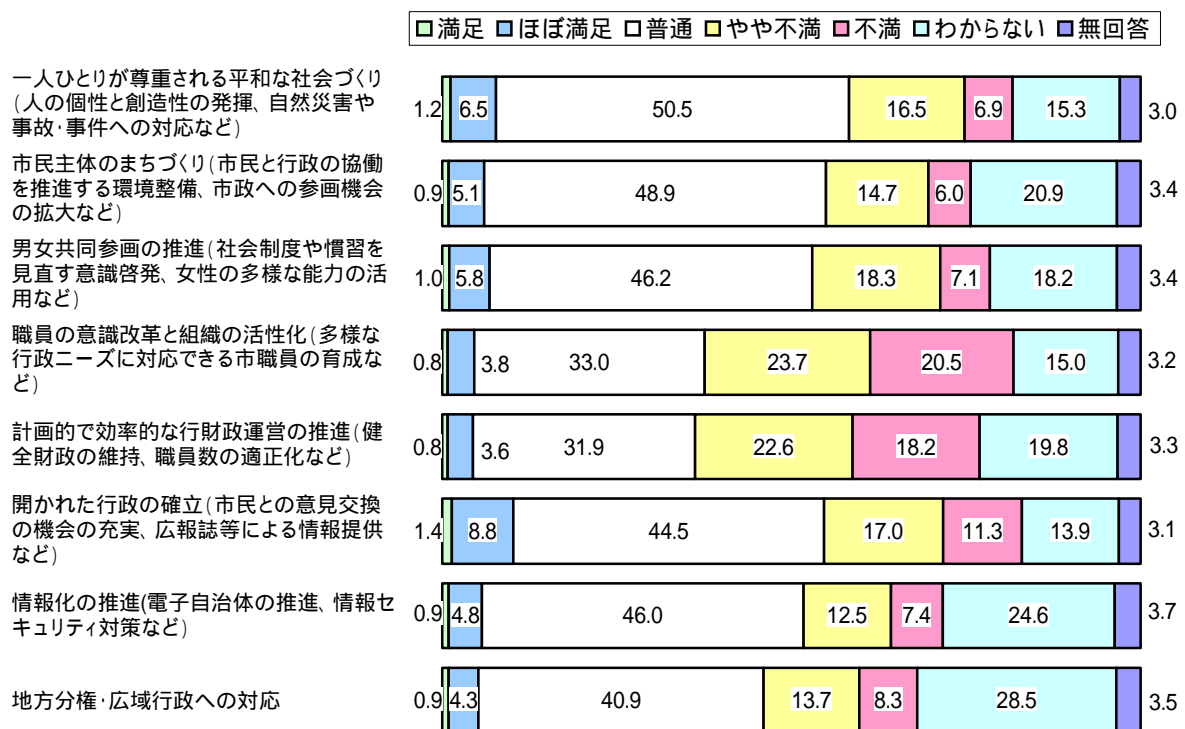


新しい富山を創る協働のまち

最も低い満足度

- ・ この分野の8つの施策は『満足』の割合が低く、最も高い「開かれた行政の確立」でも10.2%である。
- ・ 一方で『不満』とする割合は、「職員の意識改革と組織の活性化」(44.2%)「計画的で効率的な行財政運営の推進」(40.8%)などで高い。

(%)



属性別の状況

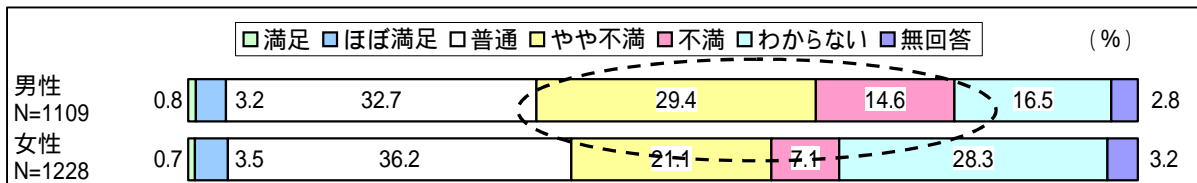
回答を性別、年齢別などで見ると、次のようにそれぞれの属性によって回答の傾向の違いを見ることができる。

属性	項目	回答が高い属性
性別	エネルギーの有効活用	男性の『不満』
	広域・滞在型観光の推進	男性の『不満』
	とやまの未来を拓く新産業・新事業の創造	男性の『不満』
年齢別	賑わいと交流の都市空間の整備・充実	29歳以下の『不満』
	歩いて暮らせるまちづくり	29歳以下の『不満』
	個性や能力を生かした多様な雇用機会の創出	30、40歳代の『不満』
	勤労者福祉の向上	30、40歳代の『不満』
	健康づくりや活動の充実	60歳以上の『満足』
	保健・医療・福祉の連携、充実	60歳以上の『満足』
	消防・救急体制の整備	60歳以上の『満足』
	賑わい交流の都市空間の整備・充実	60歳以上の『満足』
職業別	とやまの魅力と活力を築くものづくり・しくみづくり	農林漁業、自営業の『不満』

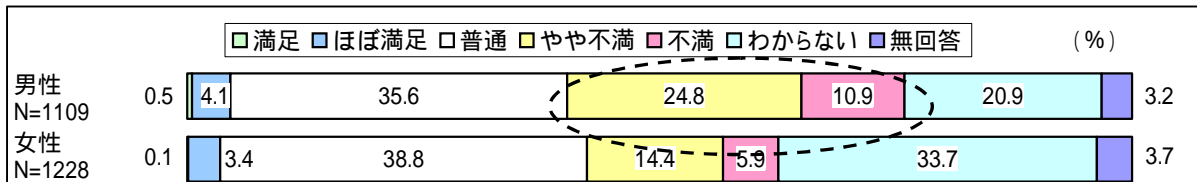
男性で高い『不満』

性別による回答の違いはほとんどなく、特に『満足』については男女とも近い回答割合である。その中で「エネルギーの有効活用」や「とやまの未来を拓く新産業・新事業の創造」「広域・滞在型観光の推進」については、『不満』とした回答が女性の割合に比べ男性の割合が高い。

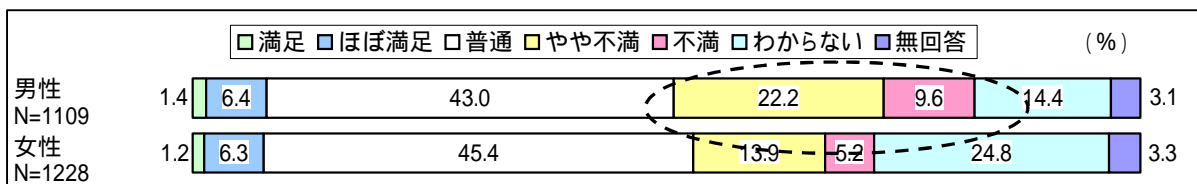
エネルギーの有効活用



とやまの未来を拓く新産業・新事業の創造



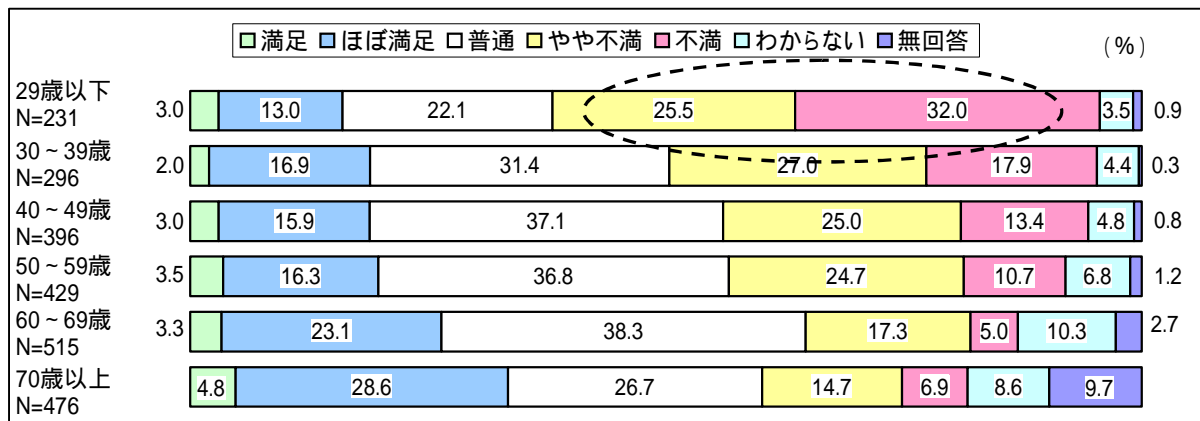
広域・滞在型観光の推進



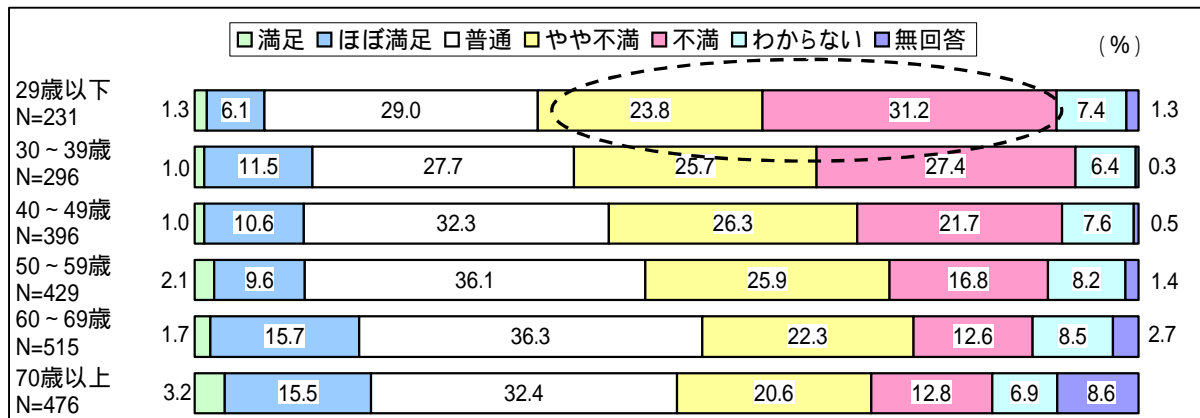
若い世代で高い『不満』

「賑わいと交流の都市空間の整備・充実」や「歩いて暮らせるまちづくり」については、29歳以下で『不満』の割合がそれぞれ57.5%、55.0%と5割を超え、都市環境の整備に対する不満が現れている。また、30歳代でもほぼ同様の傾向が見られ、年齢が上がるに従ってこの割合は減少している。

賑わいと交流の都市空間の整備・充実



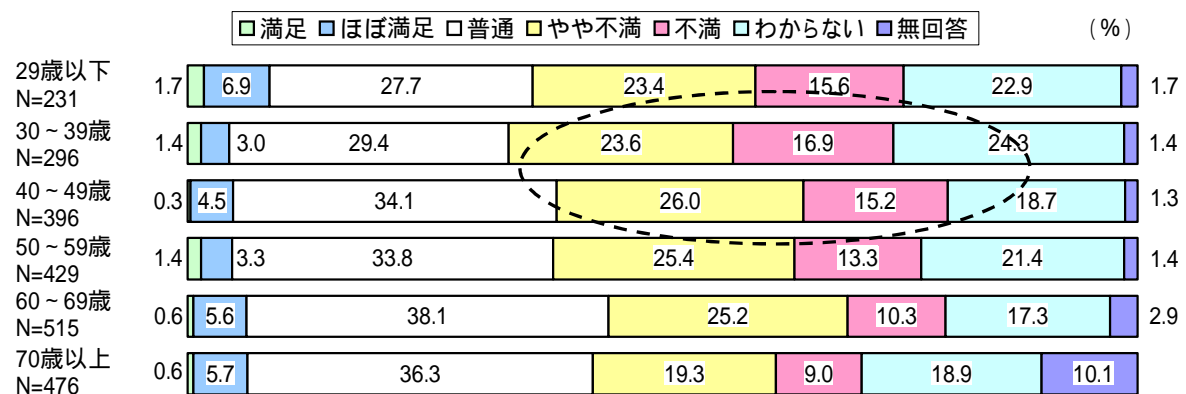
歩いて暮らせるまちづくり



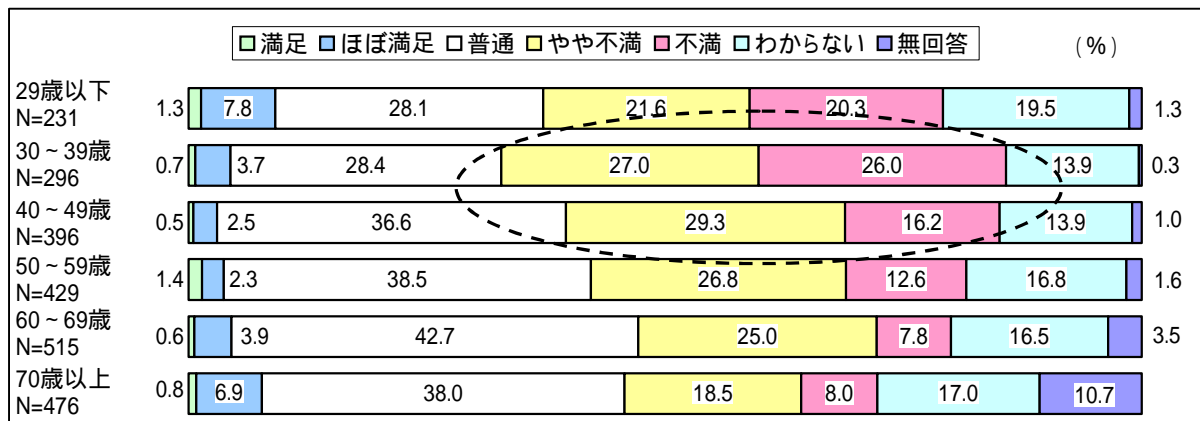
30～40歳代の労働環境への高い『不満』

「個性や能力を生かした多様な雇用機会の創出」や「勤労者福祉の向上」など、全体的に『不満』の割合は高いが、特に30～40歳代の現役世代で『満足』が5%以下なのに対し『不満』とする割合が40%以上と高い。

個性や能力を生かした多様な雇用機会の創出



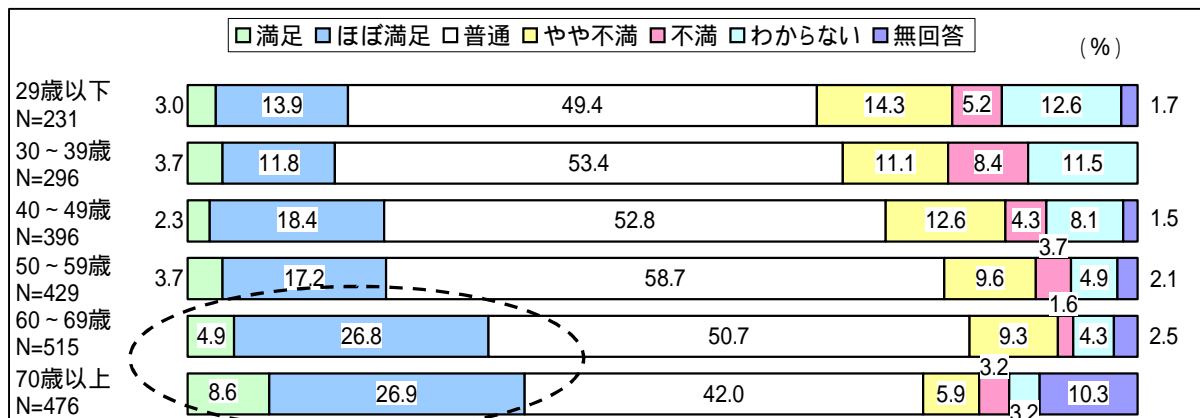
勤労者福祉の向上



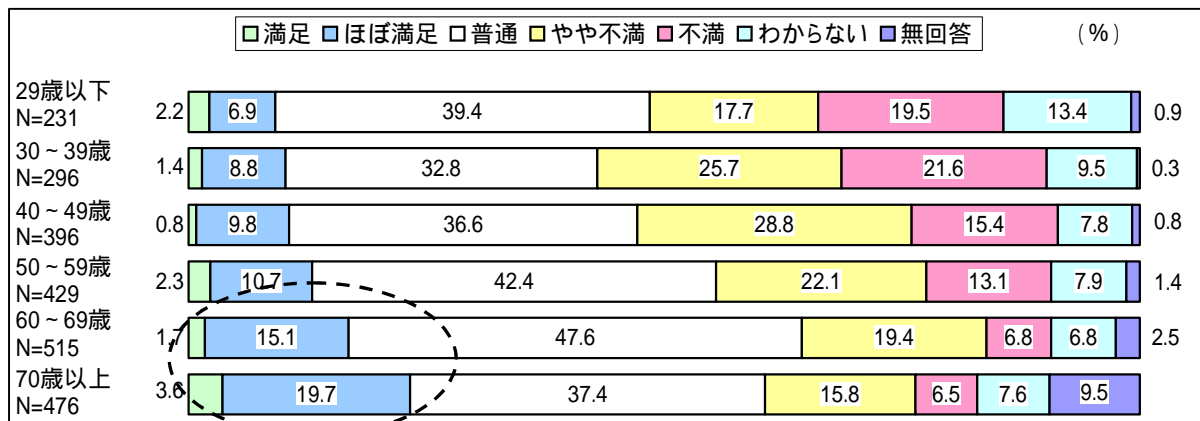
高年齢で高い『満足』

「健康づくり活動の充実」や「保健・医療・福祉の連携、充実」の健康福祉に関する施策や、「消防・救急体制の整備」「賑わい交流の都市空間の整備・充実」において年齢が高くなるにつれて『満足』が高くなっている。

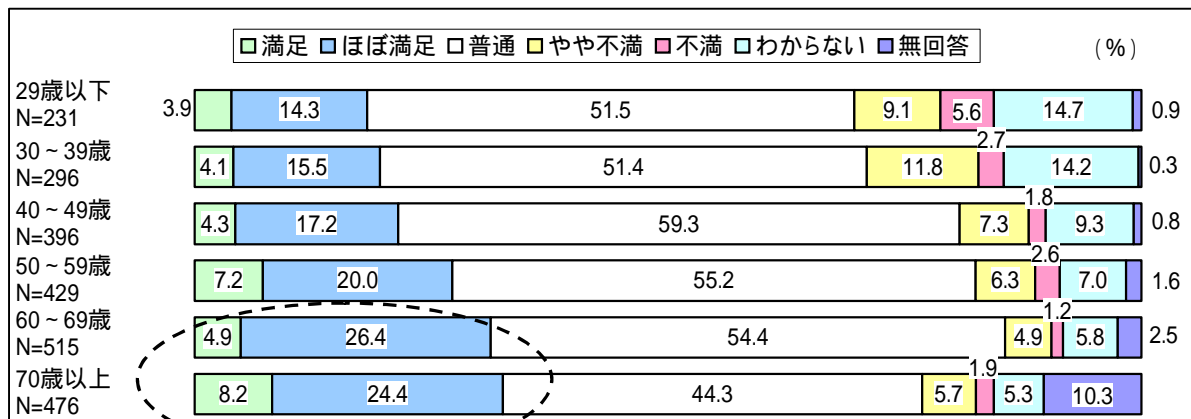
健康づくりや活動の充実



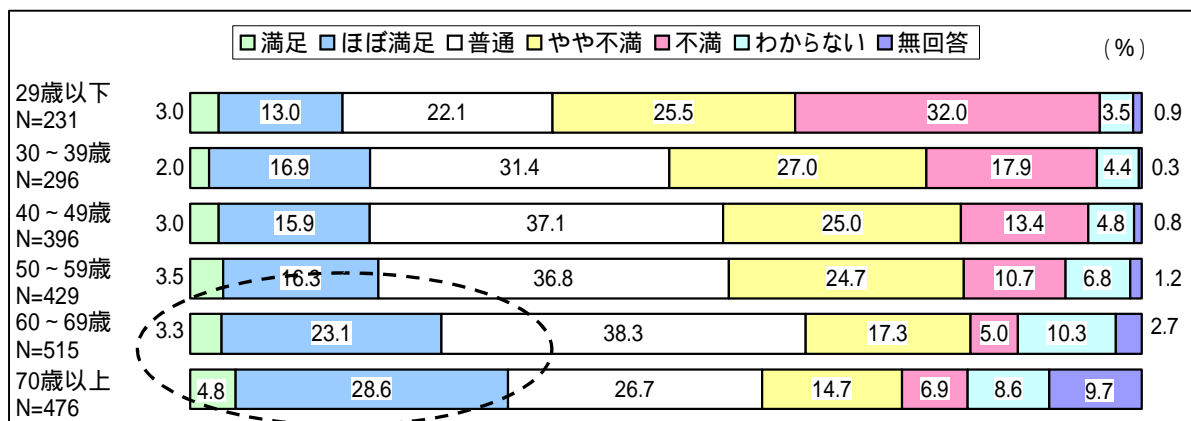
保健・医療・福祉の連携、充実



消防・救急体制の整備



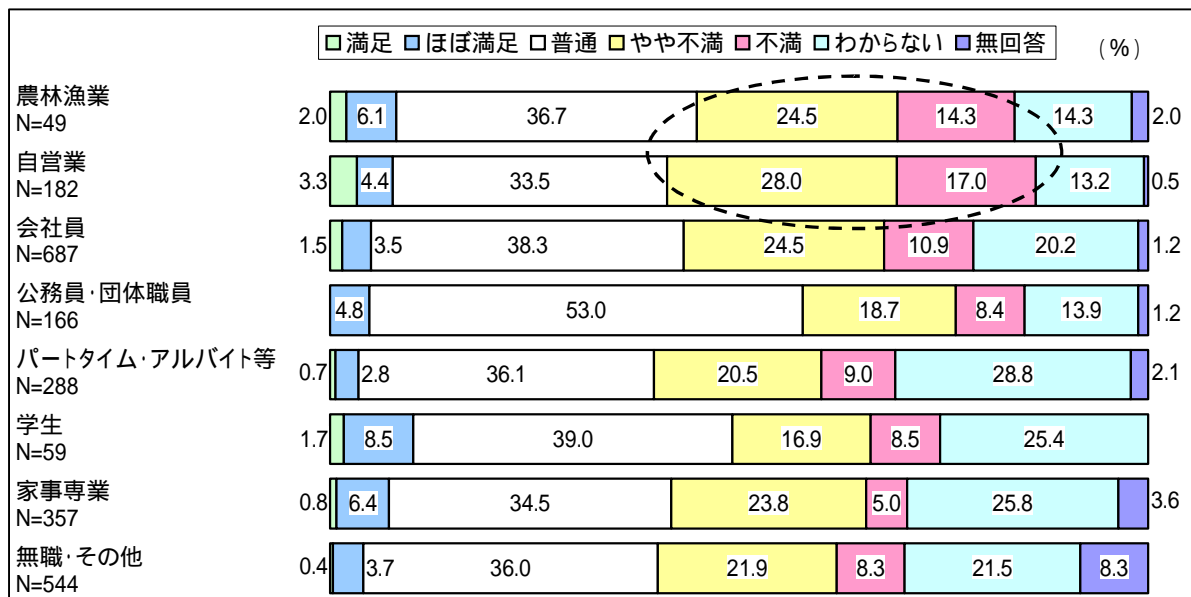
賑わい交流の都市空間の整備・充実



農林漁業・自営業で高い『不満』

「とやまの魅力と活力を築くものづくり・しくみづくり」について職業別に見ると、農林漁業、自営業で『不満』の割合が高い。

とやまの魅力と活力を築くものづくり・しくみづくり



6(1). 今後のまちづくりの重点(まちづくりの目標別)

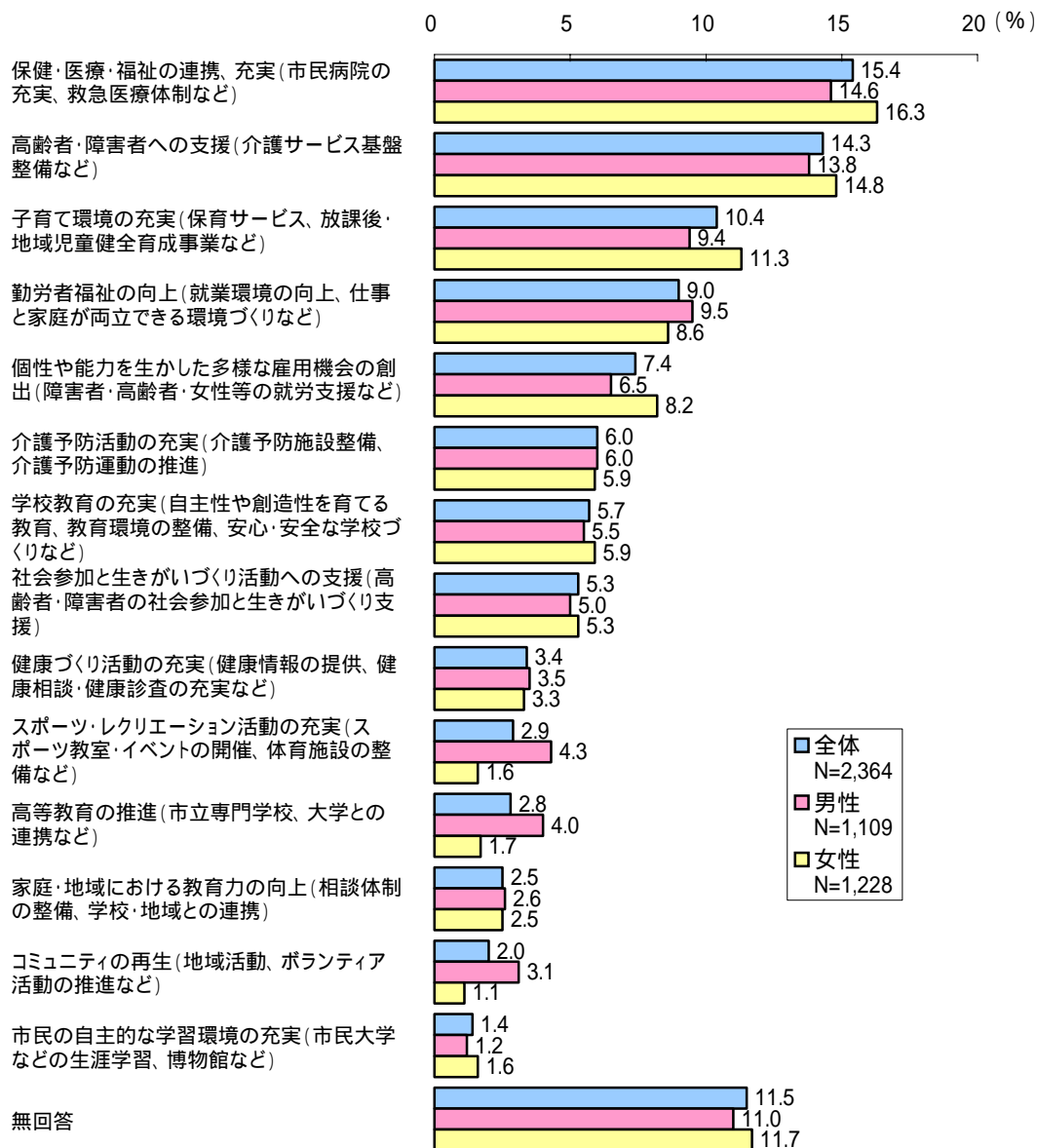
問 6(1) 富山市の施策のうち、今後重点的に取り組むべきであると思うものについて5つの「まちづくりの目標」ごとに1つ選んでください。

人が輝き安心して暮らせるまち

保健・医療・福祉、子育て等を重点的に

- 今後重点的に取り組むべき施策は、「保健・医療・福祉の連携、充実」(15.4%)「高齢者・障害者への支援」(14.3%)「子育て環境の充実」(10.4%)が上位である。

[性別] 重点的に取り組むべき施策()



- ・ 年齢別に見ると、29歳以下と30歳代の世代では「子育て環境の充実」が第一に挙げられ、60歳代と70歳以上では「高齢者・障害者への支援」が第一に挙げられるなど、それぞれの世代によって身近な課題に関する施策に重点的に取り組むべきとしている。

[年齢別]重点的に取り組むべき施策()・上位10項目

(%)

	保健・医療・福祉の連携、充実	高齢者・障害者への支援	子育て環境の充実	勤労者福祉の向上	個性や能力を生かした多様な雇用機会の創出	介護予防活動の充実	学校教育の充実	社会参加と生きがいづくり活動への支援	健康づくり活動の充実	スポーツ・レクリエーション活動の充実
29歳以下 N=231	15.2	13.0	15.6	11.3	4.3	3.5	8.2	3.9	1.3	6.1
30～39歳 N=296	18.2	9.8	24.3	15.2	5.1	3.0	5.7	3.0	1.0	4.1
40～49歳 N=396	17.2	15.2	9.3	9.1	9.1	6.8	10.1	3.3	2.8	4.3
50～59歳 N=429	16.8	15.6	6.8	8.4	10.0	7.0	4.0	6.8	4.2	3.3
60～69歳 N=515	14.2	14.6	7.8	8.9	8.0	8.0	3.9	7.2	4.1	1.9
70歳以上 N=476	12.6	15.8	6.3	4.4	6.1	5.3	4.4	5.0	5.0	0.2

は、各年代での第1位の回答

[居住地域別]重点的に取り組むべき施策()・上位10項目

(%)

	保健・医療・福祉の連携、充実	高齢者・障害者への支援	子育て環境の充実	勤労者福祉の向上	個性や能力を生かした多様な雇用機会の創出	介護予防活動の充実	学校教育の充実	社会参加と生きがいづくり活動への支援	健康づくり活動の充実	スポーツ・レクリエーション活動の充実
富山地域 N=1,604	15.3	14.5	10.4	9.2	8.0	6.0	5.7	4.9	3.4	3.1
大沢野地域 N=166	15.7	11.4	10.2	10.2	3.0	6.0	6.6	4.2	1.8	3.6
大山地域 N=73	15.1	17.8	9.6	9.6	8.2	5.5	6.8	2.7	1.4	4.1
八尾地域 N=166	14.5	14.5	13.3	6.6	8.4	2.4	4.8	4.8	6.0	1.8
婦中地域 N=244	16.0	16.0	11.1	7.4	5.7	8.2	5.3	8.6	3.7	2.9
山田地域 N=35	22.9	8.6	5.7	5.7	2.9	8.6	-	5.7	2.9	-
細入地域 N=44	18.2	9.1	4.5	18.2	11.4	6.8	11.4	4.5	2.3	-

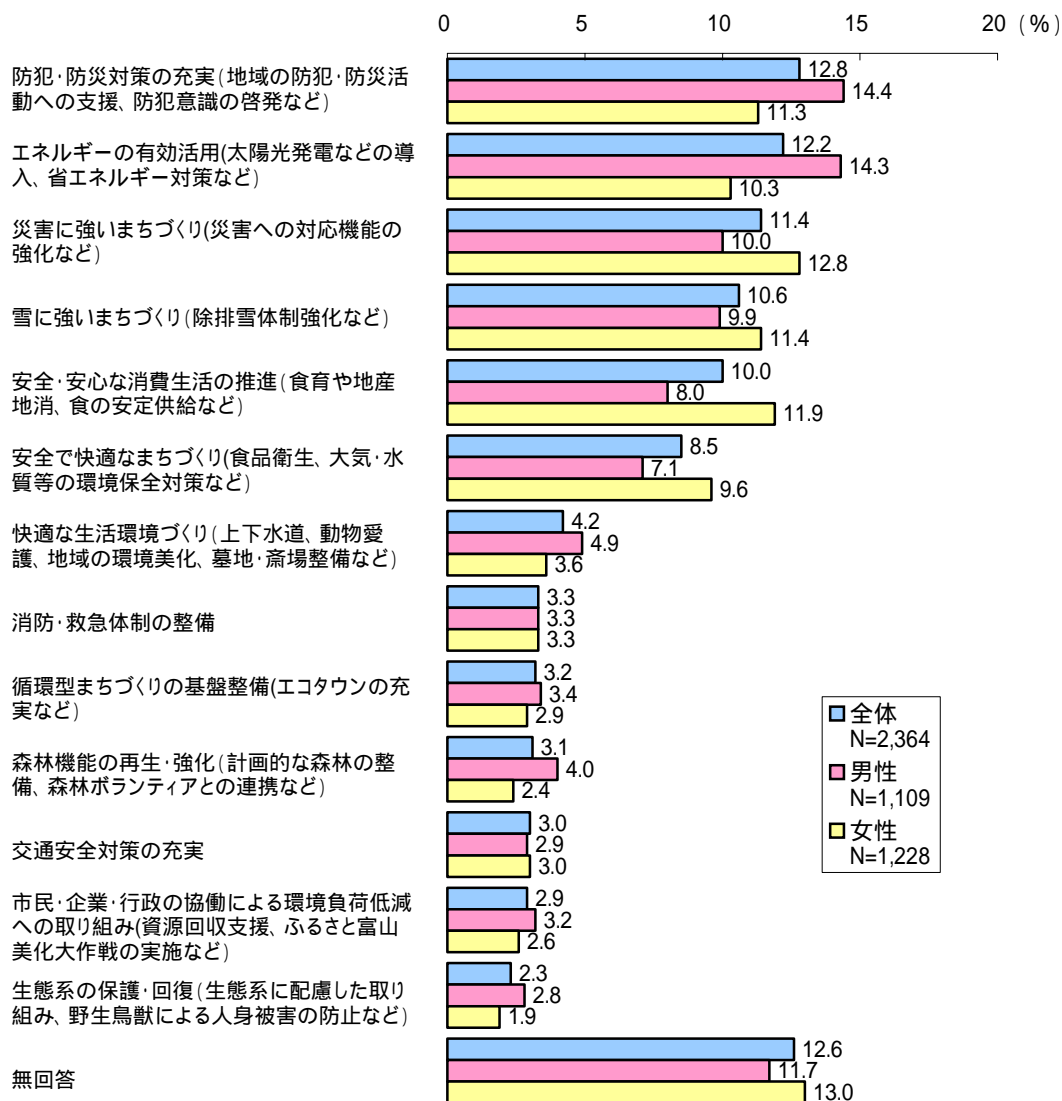
は、各地域での第1位の回答

すべてにやさしい安全なまち

「安全」への思いに男女差

- 「防犯・防災対策の充実」が12.8%で最も高く、次いで「エネルギーの有効活用」(12.2%)、「災害に強いまちづくり」(11.4%)の順である。この分野は、男女による回答の差が大きく、「防犯・防災対策の充実」(男性:14.4%、女性:11.3%、以下同様)や「エネルギーの有効活用」(14.3%、10.3%)が男性の回答割合が高く、「災害に強いまちづくり」(10.0%、12.8%)「安全・安心な消費生活の推進」(8.0%、11.9%)「安全で快適なまちづくり」(7.1%、9.6%)は女性の回答が高い。

[性別] 重点的に取り組むべき施策()



- ・ 年齢別には、重点的に取り組むべきとされる施策の順位にばらつきが見られる。

[年齢別] 重点的に取り組むべき施策 () ・ 上位 10 項目

(%)

	防犯・防災 対策の充 実	エネル ギーの有 効活用	災害に強 いまちづ くり	雪に強い まちづ くり	安全・安心 な消費生 活の推進	安全で快 適なまちづ くり	快適な生 活環境づ くり	消防・救急 体制の整 備	循環型ま ちづくりの 基盤整備	森林機能 の再生・強 化
29歳以下 N=231	11.3	14.3	12.1	16.5	7.8	6.5	3.0	6.1	4.8	3.5
30～39歳 N=296	14.9	13.9	13.2	10.8	11.1	5.1	2.7	5.7	4.4	6.1
40～49歳 N=396	14.4	16.7	14.4	13.6	9.3	8.6	6.6	2.5	2.5	1.5
50～59歳 N=429	12.4	8.2	11.0	10.7	10.7	8.6	5.4	4.9	4.7	3.5
60～69歳 N=515	14.6	12.8	8.7	9.1	10.7	11.5	3.5	1.2	2.3	3.3
70歳以上 N=476	9.2	9.2	10.9	6.9	9.7	7.8	3.6	2.1	1.7	1.9

は、各年代での第 1 位の回答

- ・ 居住地域別に見ると、地域によって傾向が異なり、八尾地域と山田地域では「雪に強いまちづくり」が第一に挙げられ、婦中地域と細入地域では「災害に強いまちづくり」が第一に挙げられている。

[居住地域別] 重点的に取り組むべき施策 () ・ 上位 10 項目

(%)

	防犯・防災 対策の充 実	エネル ギーの有 効活用	災害に強 いまちづ くり	雪に強い まちづ くり	安全・安心 な消費生 活の推進	安全で快 適なまちづ くり	快適な生 活環境づ くり	消防・救急 体制の整 備	循環型ま ちづくりの 基盤整備	森林機能 の再生・強 化
富山地域 N=1,604	14.3	11.7	11.3	10.7	10.5	8.9	3.4	4.1	3.1	2.8
大沢野地域 N=166	11.4	15.1	12.7	7.8	8.4	5.4	6.6	0.6	3.6	1.8
大山地域 N=73	9.6	16.4	5.5	5.5	8.2	8.2	2.7	1.4	1.4	6.8
八尾地域 N=166	7.2	13.3	11.4	13.9	8.4	9.0	4.8	3.0	2.4	4.8
婦中地域 N=244	9.4	11.9	12.7	9.0	11.1	9.0	9.0	1.2	3.7	1.6
山田地域 N=35	11.4	14.3	11.4	25.7	5.7	2.9	-	2.9	-	5.7
細入地域 N=44	6.8	6.8	18.2	15.9	9.1	2.3	-	2.3	9.1	13.6

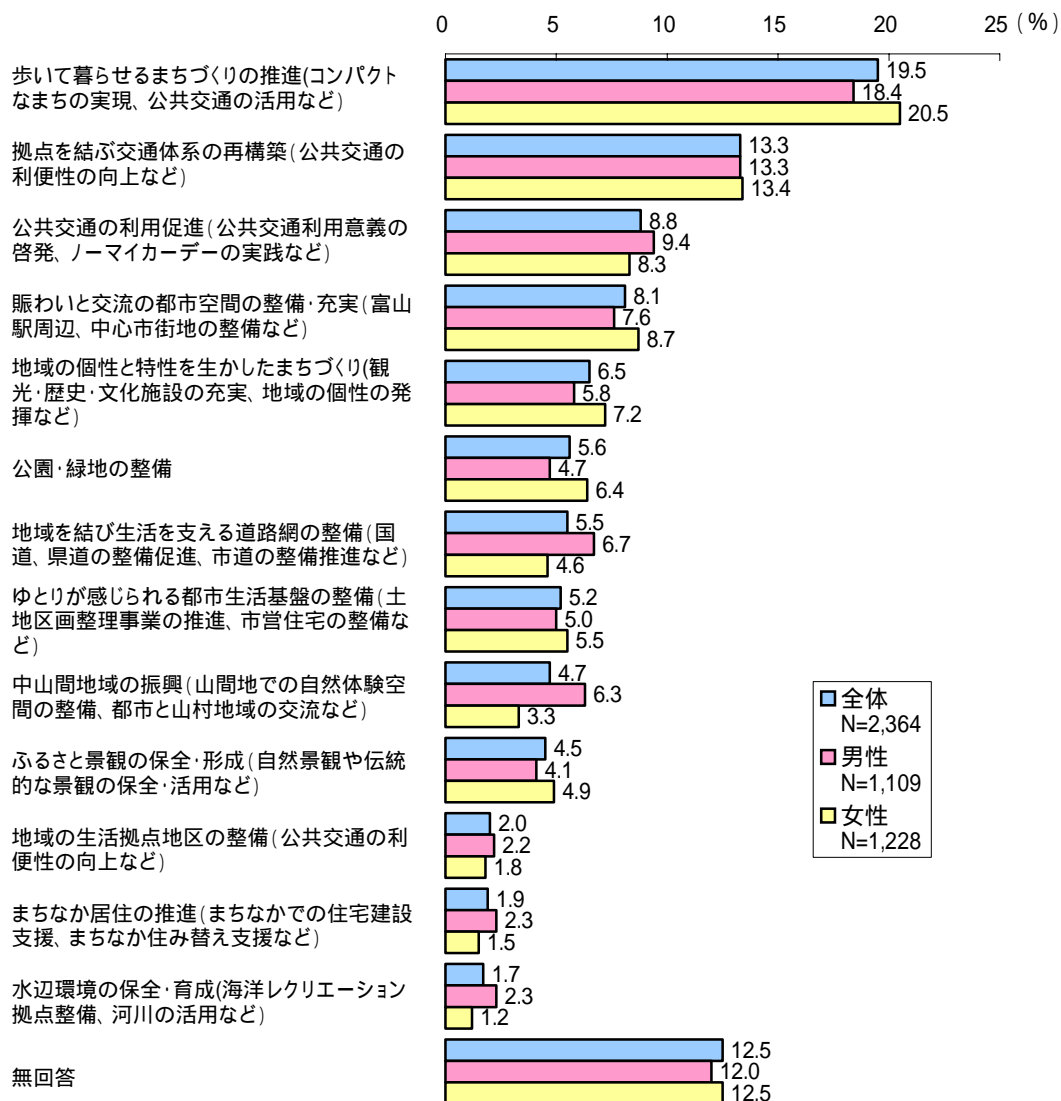
は、各地域での第 1 位の回答

都市と自然が調和した潤いが実感できるまち

交通が整備され歩いて暮らせるまちに重点を

- ・ 「歩いて暮らせるまちづくりの推進」(19.5%)が第一に挙げられ、男性よりも女性の回答割合がやや高い。次いで「拠点を結ぶ交通体系の再構築」(13.3%)「公共交通の利用促進」(8.8%)の順であり、公共交通が充実した都市形成に重点的に取り組むべきという回答となっている。

[性別] 重点的に取り組むべき施策 ()



- ・ 年齢別に見ると、29歳以下の若い世代では、「賑わいと交流の都市空間の整備・充実」が24.2%となり、他の世代との大きく違う。

[年齢別] 重点的に取り組むべき施策 ()・上位 10 項目

(%)

	歩いて暮らせるまちづくりの推進	拠点を結ぶ交通体系の再構築	公共交通の利用促進	賑わいと交流の都市空間の整備・充実	地域の個性と特性を生かしたまちづくり	公園・緑地の整備	地域を結び生活を支える道路網の整備	ゆとりが感じられる都市生活基盤の整備	中山間地域の振興	ふるさと景観の保全・形成
29歳以下 N=231	19.9	10.4	9.1	24.2	4.3	7.8	4.8	6.5	1.7	4.3
30～39歳 N=296	15.2	17.9	8.8	10.1	6.8	9.1	6.4	5.7	3.0	6.1
40～49歳 N=396	16.7	18.7	9.8	8.8	7.1	6.3	8.6	6.8	3.5	2.5
50～59歳 N=429	21.2	15.6	9.8	7.0	6.5	4.7	4.2	6.3	4.4	5.6
60～69歳 N=515	22.7	11.1	7.6	3.9	6.6	5.2	4.9	4.1	8.3	6.0
70歳以上 N=476	19.1	7.8	8.2	4.2	6.9	3.2	5.0	3.4	4.4	2.7

は、各年代での第1位の回答

- ・ 居住地域別に見ると、山田地域では「中山間地域の振興」が17.1%で第一に挙げられ、大沢野地域と細入地域では「拠点を結ぶ交通体系の再構築」が第一に挙げられる。特に細入地域では34.1%と高い回答となっている。

[居住地域別] 重点的に取り組むべき施策 ()・上位 10 項目

(%)

	歩いて暮らせるまちづくりの推進	拠点を結ぶ交通体系の再構築	公共交通の利用促進	賑わいと交流の都市空間の整備・充実	地域の個性と特性を生かしたまちづくり	公園・緑地の整備	地域を結び生活を支える道路網の整備	ゆとりが感じられる都市生活基盤の整備	中山間地域の振興	ふるさと景観の保全・形成
富山地域 N=1,604	21.3	13.1	9.9	9.4	6.2	5.4	4.7	5.6	2.6	4.9
大沢野地域 N=166	14.5	16.3	6.0	4.8	9.0	7.2	8.4	4.2	6.6	2.4
大山地域 N=73	16.4	9.6	5.5	9.6	5.5	9.6	8.2	2.7	6.8	5.5
八尾地域 N=166	13.9	10.2	4.8	4.2	7.8	5.4	12.0	5.4	10.2	3.0
婦中地域 N=244	20.9	12.7	8.6	6.1	6.1	7.0	4.1	6.1	7.4	4.9
山田地域 N=35	11.4	14.3	2.9	-	14.3	-	8.6	-	17.1	-
細入地域 N=44	2.3	34.1	6.8	4.5	4.5	-	4.5	-	22.7	4.5

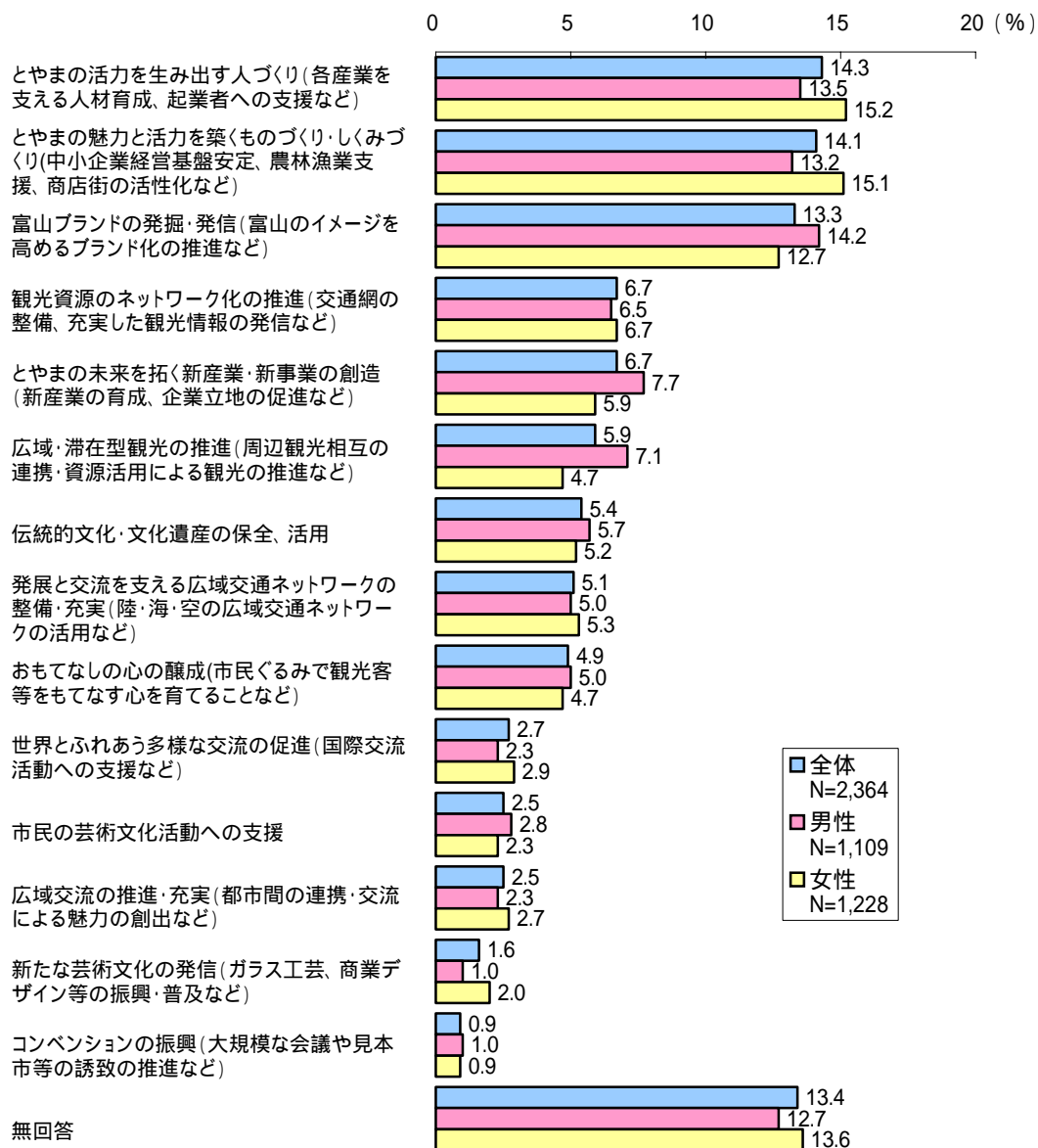
は、各地域での第1位の回答

個性と創造性に満ちた活力あふれるまち

人づくり・ものづくり・富山ブランドに重点を

- ・ 「とやまの活力を生み出す人づくり」が14.3%で最も高く、次いで「とやまの魅力と活力を築くものづくり・しくみづくり」(14.1%)「富山ブランドの発掘・発信」(13.3%)の順であり、この3項目で全体の4割を占める。

[性別] 重点的に取り組むべき施策()



- ・ 年齢別に見ると、29歳以下、30歳代の比較的若い世代で、「富山ブランドの発掘・発信」が第一に挙げられている。
- ・ 職業別に見ると、農林漁業と自営業の人は「とやまの魅力と活力を築くものづくり・しくみづくり」が第一に挙げられ、会社員、公務員・団体職員と学生は「富山ブランドの発掘・発信」を第一に挙げるなど、職業によってが順位に違いが見られる。

[年齢別] 重点的に取り組むべき施策 () ・ 上位 10 項目

(%)

	とやまの活力を生み出すものづくり	とやまの魅力と活力を築くものづくり・しくみづくり	富山ブランドの発掘・発信	観光資源のネットワーク化の推進	とやまの未来を拓く新産業・新事業の創造	広域・滞在型観光の推進	伝統的文化・文化遺産の保全・活用	発展と交流を支える広域交通ネットワークの整備・充実	おもてなしの心の醸成	世界とふれあう多様な交流の促進
29歳以下 N=231	12.6	12.1	19.5	11.3	4.8	3.9	5.6	6.5	3.5	5.6
30～39歳 N=296	13.5	11.1	18.9	7.1	4.7	9.1	10.5	4.4	4.4	3.7
40～49歳 N=396	19.2	16.2	13.9	6.6	8.8	5.1	4.8	6.8	3.5	2.0
50～59歳 N=429	14.2	16.6	14.0	6.1	6.8	6.3	5.6	5.6	7.7	1.9
60～69歳 N=515	14.6	16.7	10.7	7.0	7.8	4.9	4.1	5.2	4.9	2.7
70歳以上 N=476	11.8	10.5	8.8	4.2	6.1	6.1	4.0	3.2	4.4	1.7

は、各年代での第 1 位の回答

[職業別] 重点的に取り組むべき施策 () ・ 上位 10 項目

(%)

	とやまの活力を生み出すものづくり	とやまの魅力と活力を築くものづくり・しくみづくり	富山ブランドの発掘・発信	観光資源のネットワーク化の推進	とやまの未来を拓く新産業・新事業の創造	広域・滞在型観光の推進	伝統的文化・文化遺産の保全・活用	発展と交流を支える広域交通ネットワークの整備・充実	おもてなしの心の醸成	世界とふれあう多様な交流の促進
農林漁業 N=49	6.1	26.5	8.2	2.0	6.1	4.1	2.0	6.1	-	2.0
自営業 N=182	13.7	18.1	13.7	4.9	8.8	3.8	4.4	3.8	5.5	6.0
会社員 N=687	14.1	14.8	15.3	7.7	7.4	7.9	6.6	5.8	4.4	2.3
公務員・団体職員 N=166	13.9	12.7	15.7	10.8	5.4	6.0	7.8	5.4	5.4	2.4
パートタイム・アルバイト等 N=288	17.7	12.5	14.2	8.0	6.9	4.9	6.3	5.6	4.5	3.1
学生 N=59	15.3	11.9	20.3	1.7	6.8	5.1	10.2	8.5	3.4	6.8
家事専業 N=357	12.0	16.2	12.9	5.9	7.6	3.4	3.6	5.9	4.5	2.5
無職・その他 N=544	15.4	11.0	9.9	5.3	5.0	6.4	4.2	3.7	6.1	1.5

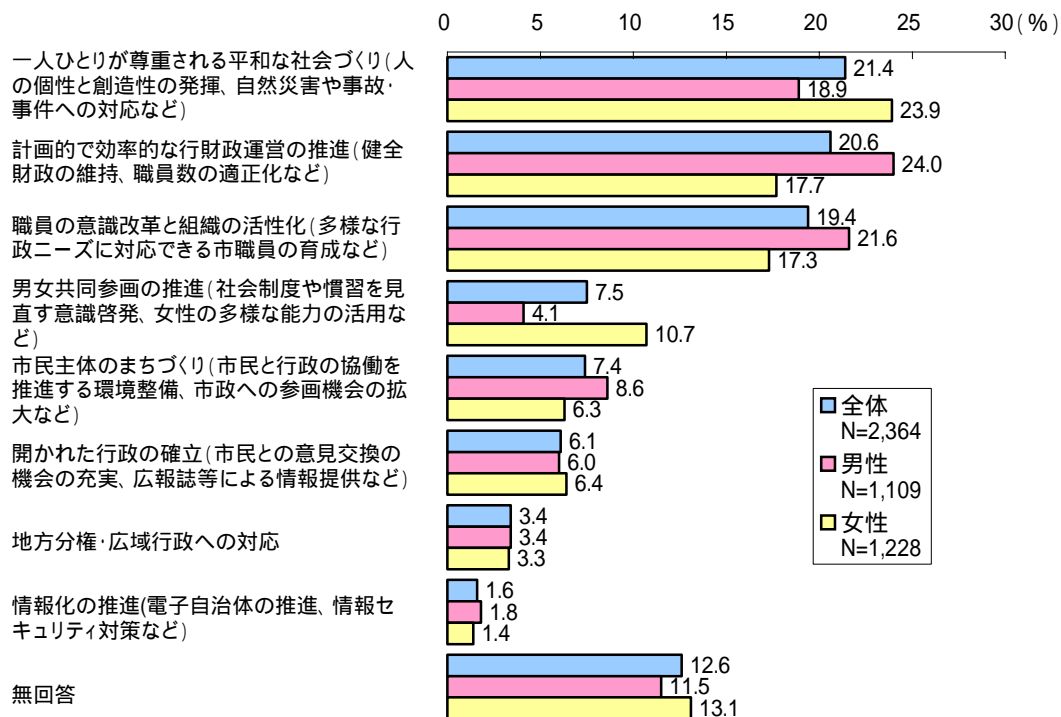
は、各職業での第 1 位の回答

新しい富山を創る協働のまち

平和な社会づくりと行財政運営に重点を

- ・ 「一人ひとりが尊重される平和な社会づくり」が 21.4%で最も高く、次いで「計画的で効率的な行財政運営の推進」(20.6%) 「職員の意識改革と組織の活性化」(19.4%) の順である。
- ・ 性別に見ると、回答にかなり差が見られるが、特に第 4 位に挙げられる「男女共同参画の推進」は女性が 10.7%であるのに対して男性が 4.1%と、男女の回答に大きな差が見られる。

[性別] 重点的に取り組むべき施策 ()



- ・ 年齢別に見ると、30歳代と40歳代の人では「計画的で効率的な行財政運営の推進」が第一に挙げられている。また、第4位の「男女共同参画の推進」は年代が低くなるほど重点的に取り組むべきとする回答割合が高くなっている。
- ・ 居住地域別にみると、地域によって第1位に挙げられる施策に違いが見られ、特に山田地域では全体の第5位である「市民主体のまちづくり」が第1位となっている。

[年齢別] 重点的に取り組むべき施策 ()

(%)

	一人ひとりが尊重される平和な社会づくり	計画的で効率的な行財政運営の推進	職員の意識改革と組織の活性化	男女共同参画の推進	市民主体のまちづくり	開かれた行政の確立	地方分権・広域行政の推進	情報化の推進
29歳以下 N=231	23.8	15.6	19.5	16.9	6.5	6.1	3.5	2.6
30～39歳 N=296	18.9	26.4	18.6	11.5	6.1	6.4	4.7	3.0
40～49歳 N=396	20.7	28.0	23.0	9.6	4.8	5.6	3.5	1.8
50～59歳 N=429	23.5	20.5	20.0	6.5	10.3	4.7	4.4	1.4
60～69歳 N=515	23.9	20.4	19.8	4.7	7.2	6.6	2.9	1.0
70歳以上 N=476	18.1	13.9	15.3	2.9	8.2	7.6	1.9	0.8

は、各年代での第1位の回答

[居住地域別] 重点的に取り組むべき施策 ()

(%)

	一人ひとりが尊重される平和な社会づくり	計画的で効率的な行財政運営の推進	職員の意識改革と組織の活性化	男女共同参画の推進	市民主体のまちづくり	開かれた行政の確立	地方分権・広域行政の推進	情報化の推進
富山地域 N=1,604	21.9	20.4	20.5	8.3	7.2	5.8	3.1	1.7
大沢野地域 N=166	18.1	25.3	14.5	5.4	6.6	6.0	6.0	1.2
大山地域 N=73	19.2	15.1	23.3	9.6	5.5	9.6	4.1	-
八尾地域 N=166	19.3	25.3	15.1	7.2	4.8	5.4	1.8	3.0
婦中地域 N=244	25.4	20.1	16.8	3.3	10.2	7.8	4.1	0.4
山田地域 N=35	14.3	8.6	14.3	14.3	17.1	5.7	2.9	-
細入地域 N=44	20.5	20.5	22.7	6.8	4.5	9.1	6.8	-

は、各地域での第1位の回答

6(2). 今後のまちづくりの重点(全体)

問6(2) 今後重点的に取り組むべきであると思う施策5つのうち、最も重点的に取り組むべきであると思うものを1つ選んでください。

「安心して暮らせるまち」と「協働のまち」に最も重点的に取り組むべき

- ・最も重点的に取り組むべきものとしてあげられた施策の順位は次のとおりである。このうち、100人以上の人が挙げている6施策を見ると、まちづくり目標「人が輝き安心して暮らせるまち」と「新しい富山を創る協働のまち」に関するものとなっている。
- ・上位にランクされた施策には福祉に関するものが多いが、それらを押さえてトップになったのは「計画的で効率的な行財政運営の推進」である。

最も重点的に取り組むべき施策

順位	施策	回答数	構成比(%)
1	計画的で効率的な行財政運営の推進(健全財政の維持、職員数の適正化など)	177	7.5
2	高齢者・障害者への支援(介護サービス基盤整備など)	159	6.7
3	子育て環境の充実(保育サービス、放課後・地域児童健全育成事業など)	141	6.0
4	職員の意識改革と組織の活性化(多様な行政ニーズに対応できる市職員の育成など)	132	5.6
5	保健・医療・福祉の連携、充実(市民病院の充実、救急医療体制など)	131	5.5
6	一人ひとりが尊重される平和な社会づくり(人の個性と創造性の発揮、自然災害や事故・事件への対応など)	126	5.3
7	歩いて暮らせるまちづくりの推進(コンパクトなまちの実現、公共交通の活用など)	87	3.7
8	拠点を結ぶ交通体系の再構築(公共交通の利便性の向上など)	60	2.5
9	災害に強いまちづくり(災害への対応機能の強化など)	56	2.4
10	勤労者福祉の向上(就業環境の向上、仕事と家庭が両立できる環境づくりなど)	54	2.3
10	エネルギーの有効活用(太陽光発電などの導入、省エネルギー対策など)	54	2.3
12	介護予防活動の充実(介護予防施設整備、介護予防運動の推進)	53	2.2
13	学校教育の充実(自主性や創造性を育てる教育、教育環境の整備、安心・安全な学校づくりなど)	49	2.1
14	とやまの魅力と活力を築くものづくり・しくみづくり(中小企業経営基盤安定、農林漁業支援、商店街の活性化など)	46	1.9
15	賑わいと交流の都市空間の整備・充実(富山駅周辺、中心市街地の整備など)	45	1.9
16	個性や能力を生かした多様な雇用機会の創出(障害者・高齢者・女性等の就労支援など)	43	1.8
17	防犯・防災対策の充実(地域の防犯・防災活動への支援、防犯意識の啓発など)	41	1.7
18	雪に強いまちづくり(除排雪体制強化など)	38	1.6
19	安全・安心な消費生活の推進(食育や地産地消、食の安定供給など)	34	1.4

順位	施策	回答数	構成比(%)
20	社会参加と生きがいづくり活動への支援(高齢者・障害者の社会参加と生きがいづくり支援)	33	1.4
20	市民主体のまちづくり(市民と行政の協働を推進する環境整備、市政への参画機会の拡大など)	33	1.4
22	とやまの活力を生み出す人づくり(各産業を支える人材育成、起業家への支援など)	32	1.4
23	開かれた行政の確立(市民との意見交換の機会の充実、広報誌等による情報提供など)	30	1.3
24	富山ブランドの発掘・発信(富山のイメージを高めるブランド化の推進など)	26	1.1
25	安全で快適なまちづくり(食品衛生、大気・水質等の環境保全対策など)	24	1.0
26	公共交通の利用促進(公共交通利用意義の啓発、ノーマイカーデーの実践など)	22	0.9
27	健康づくり活動の充実(健康情報の提供、健康相談・健康診査の充実など)	20	0.8
27	男女共同参画の推進(社会制度や慣習を見直す意識啓発、女性の多様な能力の活用など)	20	0.8
29	とやまの未来を拓く新産業・新事業の創造(新産業の育成、企業立地の促進など)	18	0.8
30	地域の個性と特性を生かしたまちづくり(観光・歴史・文化施設の充実、地域の個性の発揮など)	17	0.7
30	地方分権・広域行政への対応	17	0.7
32	地域を結び生活を支える道路網の整備(国道、県道の整備促進、市道の整備推進など)	16	0.7
33	中山間地域の振興(山間地での自然体験空間の整備、都市と山村地域の交流など)	14	0.6
34	高等教育の推進(市立専門学校、大学との連携など)	13	0.5
35	スポーツ・レクリエーション活動の充実(スポーツ教室・イベントの開催、体育施設の整備など)	12	0.5
35	家庭・地域における教育力の向上(相談体制の整備、学校・地域との連携)	12	0.5
35	快適な生活環境づくり(上下水道、動物愛護、地域の環境美化、墓地・斎場整備など)	12	0.5
35	ふるさと景観の保全・形成(自然景観や伝統的な景観の保全・活用など)	12	0.5
35	ゆとりが感じられる都市生活基盤の整備(土地区画整理事業の推進、市営住宅の整備など)	12	0.5
35	広域・滞在型観光の推進(周辺観光相互の連携・資源活用による観光の推進など)	12	0.5
41	交通安全対策の充実	10	0.4
41	森林機能の再生・強化(計画的な森林の整備、森林ボランティアとの連携など)	10	0.4
41	発展と交流を支える広域交通ネットワークの整備・充実(陸・海・空の広域交通ネットワークの活用など)	10	0.4
44	消防・救急体制の整備	9	0.4
44	循環型まちづくりの基盤整備(エコタウンの充実など)	9	0.4
46	公園・緑地の整備	7	0.3
46	地域の生活拠点地区の整備(公共交通の利便性の向上など)	7	0.3
46	おもてなしの心の醸成(市民ぐるみで観光客等をもてなす心を育てることなど)	7	0.3

順位	施 策	回答数	構成比(%)
49	市民・企業・行政の協働による環境負荷低減への取り組み(資源回収支援、ふるさと富山美化大作戦の実施など)	6	0.3
49	生態系の保護・回復(生態系に配慮した取り組み、野生鳥獣による人身被害の防止など)	6	0.3
51	市民の自主的な学習環境の充実(市民大学などの生涯学習、博物館など)	5	0.2
51	伝統的文化・文化遺産の保全、活用	5	0.2
53	水辺環境の保全・育成(海洋レクリエーション拠点整備、河川の活用など)	4	0.2
53	新たな芸術文化の発信(ガラス工芸、商業デザイン等の振興・普及など)	4	0.2
53	世界とふれあう多様な交流の促進(国際交流活動への支援など)	4	0.2
56	コミュニティの再生(地域活動、ボランティア活動の推進など)	3	0.1
56	まちなか居住の推進(まちなかでの住宅建設支援、まちなか住み替え支援など)	3	0.1
56	観光資源のネットワーク化の推進(交通網の整備、充実した観光情報の発信など)	3	0.1
56	市民の芸術文化活動への支援	3	0.1
56	広域交流の推進・充実(都市間の連携・交流による魅力の創出など)	3	0.1
56	情報化の推進(電子自治体の推進、情報セキュリティ対策など)	3	0.1
62	コンベンションの振興(大規模な会議や見本市等の誘致の推進など)	0	0.0
	無回答	310	13.1
	全 体	2,364	100.0

- ・ 最も重点的に取り組むべきものとして挙げられた施策を年齢別に見ると、子育て世代と考えられる 20 歳代、30 歳代の方は「子育て環境の充実」に最も重点的に取り組むべきという回答が他の年代に比べて高い。
- ・ 居住年数別でも、「子育て環境の充実」に対する 3 年未満と 3～9 年の方に回答割合が高い。

[年齢別・職業別・居住年数別・居住地域別]
 最も重点的に取り組むべき施策（上位 10 項目）

（人、％）

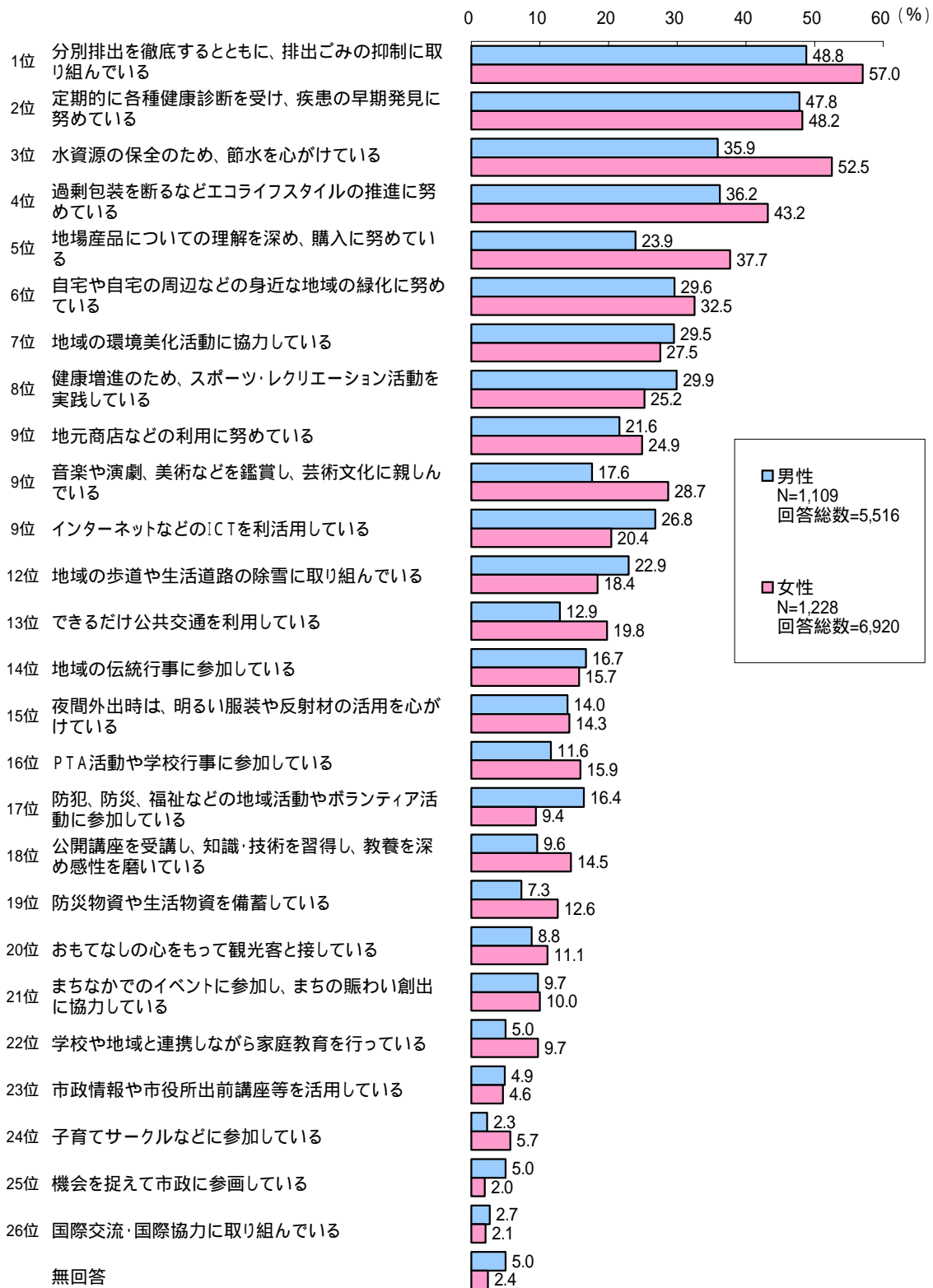
	該当者数	勤労者福祉の向上（就業環境の向上、仕事と家庭が両立できる環境づくりなど）	災害に強いまちづくり（災害への対応機能の強化など）	拠点をつなぐ交通体系の再構築（公共交通の利便性の向上など）	一人ひとりが尊重される平和な社会づくり（人の個性と創造性の発揮、自然災害や事故・事件への対応など）	保健・医療・福祉の連携、充実（市民病院の充実、救急医療体制など）	職員の意識改革と組織の活性化（多様な行政ニーズに対応できる市職員の育成など）	子育て環境の充実（保育サービス、放課後・地域児童健全育成事業など）	高齢者・障害者への支援（介護サービス基盤整備など）	計画的で効率的な行財政運営の推進（健全財政の維持、職員数の適正化など）	
[年齢別]											
29歳以下	231	5.2	7.4	8.2	3.5	4.8	4.3	5.2	2.2	1.3	4.3
30～39歳	296	6.8	4.7	16.9	3.4	9.1	5.1	3.7	4.1	2.0	5.1
40～49歳	396	8.3	8.1	5.1	5.3	6.8	4.5	3.8	4.0	4.8	1.8
50～59歳	429	8.6	7.5	4.0	6.8	4.9	5.1	3.5	1.2	1.6	2.6
60～69歳	515	8.9	7.6	4.1	6.2	5.2	7.6	3.9	1.9	2.1	1.6
70歳以上	476	6.1	5.0	2.7	6.3	3.8	4.6	2.7	2.3	2.1	0.6
[職業別]											
農林漁業	49	2.0	6.1	2.0	8.2	4.1	4.1	0.0	2.0	0.0	0.0
自営業	182	7.7	4.9	5.5	6.0	3.8	3.3	2.2	2.7	1.6	1.1
会社員	687	9.3	7.0	7.6	5.8	5.7	4.7	3.6	3.5	2.2	3.5
公務員・団体職員	166	7.2	6.6	7.2	4.2	8.4	2.4	4.2	1.8	3.6	3.6
パートタイム・アルバイト等	288	6.6	9.0	8.0	5.2	8.3	6.6	5.2	2.8	2.8	1.7
学生	59	1.7	6.8	3.4	3.4	3.4	5.1	8.5	3.4	0.0	5.1
家事専業	357	6.7	8.1	6.7	4.8	3.9	7.3	3.1	2.2	3.1	2.8
無職・その他	544	7.7	5.1	2.9	6.3	5.1	6.3	3.5	1.5	2.4	0.7
[居住年数別]											
3年未満	70	2.9	4.3	15.7	1.4	2.9	5.7	7.1	2.9	2.9	4.3
3～9年	114	5.3	4.4	14.9	1.8	7.9	4.4	7.9	3.5	1.8	0.9
10～19年	201	6.0	7.0	6.0	3.0	6.5	2.0	5.0	3.5	3.5	2.5
20年以上	1,950	8.1	6.9	5.1	6.2	5.5	5.8	3.1	2.4	2.3	2.3
[居住地域別]											
富山地域	1,604	7.5	7.5	6.0	5.5	5.8	5.3	4.0	2.5	2.3	2.4
大沢野地域	166	10.2	6.0	8.4	3.6	4.8	6.0	3.0	1.8	3.0	0.6
大山地域	73	4.1	4.1	6.8	8.2	2.7	5.5	2.7	0.0	1.4	4.1
八尾地域	166	8.4	6.6	4.2	3.6	4.2	8.4	3.0	1.8	1.2	1.2
婦中地域	244	7.8	4.5	6.6	7.0	4.9	4.5	3.7	2.9	2.9	2.9
山田地域	35	0.0	0.0	2.9	8.6	8.6	0.0	2.9	5.7	5.7	0.0
細入地域	44	9.1	4.5	2.3	9.1	13.6	4.5	0.0	9.1	4.5	4.5

は、各属性での第 1 位の回答

7. 市民の普段の取り組み

問 7 あなたが、普段から行っている取り組みについて、当てはまるものをいくつでも選んでください。(複数回答)

[性別] 普段から行っている取り組み



- 性別には違いが見られ、「分別排出を徹底するとともに、排出ごみの抑制に取り組んでいる」や「水資源の保全のため、節水を心がけている」「過剰包装を断るなどエコライフスタイルの推進に努めている」「地場産品についての理解を深め、購入に努めている」「音楽や演劇、美術などを鑑賞し、芸術文化に親しんでいる」などは、女性の回答が男性の回答を10ポイント前後上回っている。

なお、「市民の普段の取り組み」についての全体の集計結果は本報告書8頁の「調査結果のまとめ」に掲載している。

[年齢別・居住地域別] 普段から行っている取り組み -

(%)

	インターネットなどのICTを利活用している	音楽や演劇、美術などを鑑賞し、芸術文化に親しんでいる	地元商店などの利用に努めている	健康増進のため、スポーツ・レクリエーション活動を実践している	地域の環境美化活動に協力している	自宅や自宅の周辺などの身近な地域の緑化に努めている	地場産品についての理解を深め、購入に努めている	過剰包装を断るなどエコライフスタイルの推進に努めている	水資源の保全のため、節水を心がけている	定期的に各種健康診断を受け、疾患の早期発見に努めている	分別排出を徹底するとともに、排出ごみの抑制に取り組んでいる
[年齢別]											
29歳以下 N=231	44.2	20.8	10.8	22.9	12.6	7.4	16.5	37.2	41.6	17.7	35.1
30～39歳 N=296	37.8	15.5	14.5	26.7	15.9	18.2	27.4	41.6	40.9	32.8	41.6
40～49歳 N=396	35.1	22.5	16.9	26.3	24.5	24.7	30.3	36.4	46.7	50.3	54.3
50～59歳 N=429	23.1	24.5	24.0	24.9	26.1	33.6	33.6	33.6	43.8	47.1	55.0
60～69歳 N=515	13.0	26.2	31.1	30.5	40.4	41.9	39.6	43.9	45.2	58.1	64.5
70歳以上 N=476	5.9	26.3	31.5	29.6	36.3	42.0	30.0	44.5	46.6	60.1	53.6
[居住地域別]											
富山地域 N=1604	23.8	25.3	23.2	28.1	28.1	30.5	32.4	42.6	45.4	47.7	54.0
大沢野地域 N=166	25.3	16.3	27.1	24.1	30.7	31.9	22.3	38.6	43.4	47.0	50.6
大山地域 N=73	27.4	19.2	17.8	32.9	31.5	32.9	21.9	38.4	42.5	34.2	39.7
八尾地域 N=166	21.1	21.1	24.7	27.7	25.3	31.3	30.1	28.9	44.0	54.2	48.8
婦中地域 N=244	22.5	21.7	24.2	25.0	30.7	34.0	35.7	36.9	43.4	51.6	55.7
山田地域 N=35	14.3	8.6	11.4	17.1	28.6	25.7	11.4	22.9	37.1	37.1	45.7
細入地域 N=44	15.9	20.5	25.0	29.5	31.8	34.1	29.5	27.3	38.6	50.0	59.1

は、各属性での第1位の回答

- ・ 年齢別に見ると、29歳以下の方は「インターネットなどのICTを利活用している」が、70歳以上の方は「定期的に各種健康診断を受け、疾患の早期発見に努めている」が最も高い回答となっており、他の世代では「分別排出を徹底するとともに、排出ごみの抑制に取り組んでいる」が第一になっているのと違いがある。
- ・ 居住地域別に見ると、地域によって違いが見られる取り組みは、「地域の伝統行事に参加している」が細入・山田・八尾地域で高い。また、「おもてなしの心をもって観光客と接している」は山田・八尾地域で高い。

[年齢別・居住地域別] 普段から行っている取り組み -

(%)

	地域の歩道や生活道路の除雪に取り組んでいる	できるだけ公共交通を利用している	地域の伝統行事に参加している	夜間外出時は、明るい服装や反射材の活用を心がけている	P T A 活動や学校行事に参加している	活動に参加している	防犯、防災、福祉などの地域活動やボランティア活動に参加している	知識・技術を習得し、教養を深め感性を磨いている	公開講座を受講し、知識・技術を習得し、教養を深め感性を磨いている	蓄積している	防災物資や生活物資を備蓄している	おもてなしの心をもって観光客と接している	出に協力している	まちなかでのイベントに参加し、まちの賑わい創出に協力している	学校や地域と連携しながら家庭教育を行っている
[年齢別]															
29歳以下 N=231	13.0	11.7	11.7	6.9	4.3	3.9	5.6	6.5	8.2	10.4	3.0				
30～39歳 N=296	17.2	8.8	12.8	6.4	27.7	7.1	10.8	9.8	11.5	12.2	16.2				
40～49歳 N=396	19.7	8.1	15.9	6.6	40.2	11.6	9.8	14.6	8.3	7.6	15.2				
50～59歳 N=429	21.2	9.8	17.7	11.4	9.1	11.4	8.6	10.0	10.7	8.6	6.1				
60～69歳 N=515	22.1	18.1	18.6	19.0	3.7	16.7	16.1	8.7	12.0	11.7	3.5				
70歳以上 N=476	24.4	35.1	16.4	26.1	3.2	18.3	16.8	9.7	8.4	9.2	3.4				
[居住地域別]															
富山地域 N=1604	21.1	18.3	13.2	13.8	12.3	12.6	12.8	10.2	9.2	9.4	7.0				
大沢野地域 N=166	15.7	11.4	22.3	14.5	16.9	15.7	9.6	7.2	6.6	9.0	7.8				
大山地域 N=73	20.5	6.8	11.0	15.1	23.3	8.2	15.1	11.0	8.2	11.0	9.6				
八尾地域 N=166	19.3	14.5	28.3	19.3	13.3	12.7	9.6	10.2	18.7	16.3	7.8				
婦中地域 N=244	16.8	14.8	16.8	13.5	16.4	11.5	12.7	12.7	9.8	9.0	8.6				
山田地域 N=35	25.7	5.7	34.3	8.6	22.9	14.3	2.9	-	25.7	2.9	5.7				
細入地域 N=44	38.6	9.1	45.5	13.6	18.2	22.7	6.8	9.1	9.1	13.6	15.9				

[年齢別・居住地域別] 普段から行っている取り組み -

(%)

	市政情報や市役所出前講座等を活用している	子育てサークルなどに参加している	機会を捉えて市政に参加している	国際交流・国際協力に取り組んでいる	無回答
[年齢別]					
29歳以下 N=231	0.9	8.2	0.9	3.5	3.9
30～39歳 N=296	1.0	12.8	3.0	2.7	4.4
40～49歳 N=396	1.8	4.0	2.0	2.0	2.0
50～59歳 N=429	4.0	1.6	2.6	2.1	4.2
60～69歳 N=515	6.8	1.2	4.5	1.9	3.3
70歳以上 N=476	9.7	1.9	5.5	2.7	4.6
[居住地域別]					
富山地域 N=1604	5.2	4.1	3.3	2.2	3.8
大沢野地域 N=166	3.0	3.0	2.4	2.4	3.0
大山地域 N=73	4.1	5.5	5.5	2.7	1.4
八尾地域 N=166	2.4	3.6	2.4	3.0	5.4
婦中地域 N=244	4.9	4.1	4.1	3.7	2.5
山田地域 N=35	5.7	2.9	2.9	-	2.9
細入地域 N=44	2.3	6.8	6.8	2.3	4.5

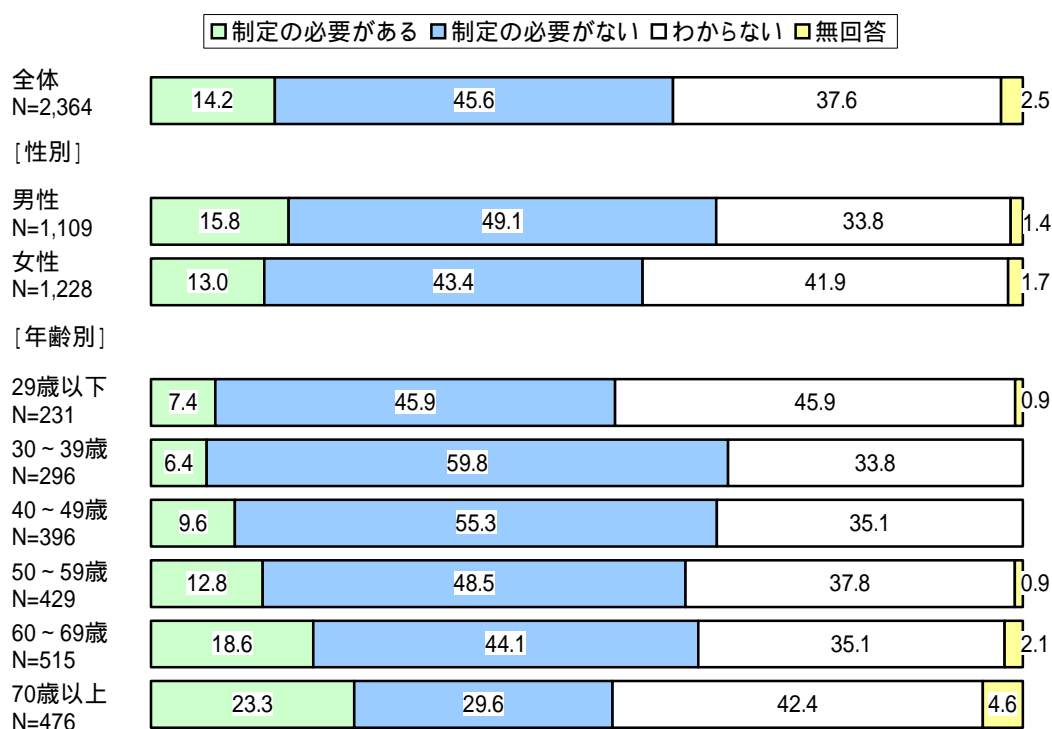
8 . 市の歌および市民憲章

問 8 (1) 富山市の「歌」についてどのように思いますか。

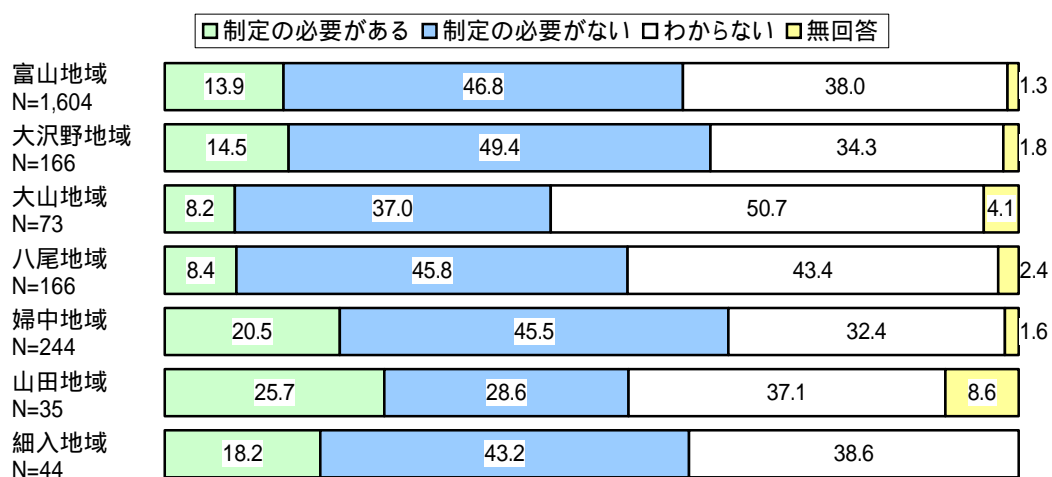
「制定の必要がない」が 5 割弱

- ・ 富山市の「歌」は、「制定の必要がある」と答えた人は 14.2%であるのに対して、「制定の必要がない」と答えた人は 45.6%である。
- ・ 居住地域別には若干違いが見られるが、どの地域も「制定の必要がない」が「制定の必要がある」を上回っている。

[性別・年齢別] 「歌」の必要性 (%)



[居住地域別] 「歌」の必要性 (%)

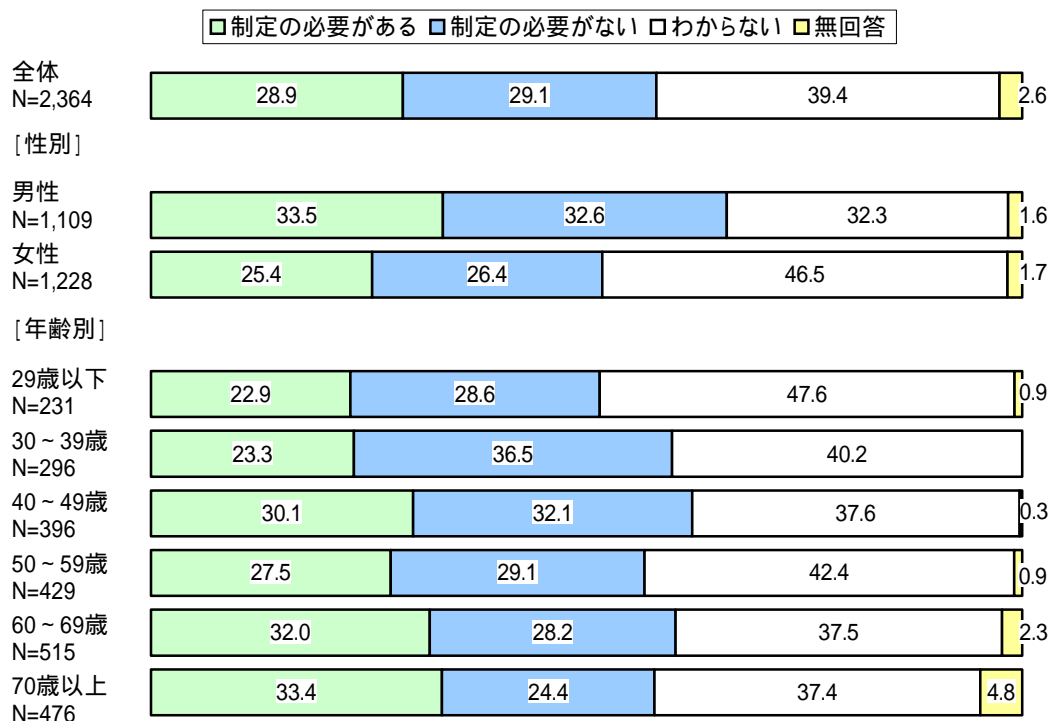


問 8 (2) 富山市の「市民憲章」についてどのように思いますか。

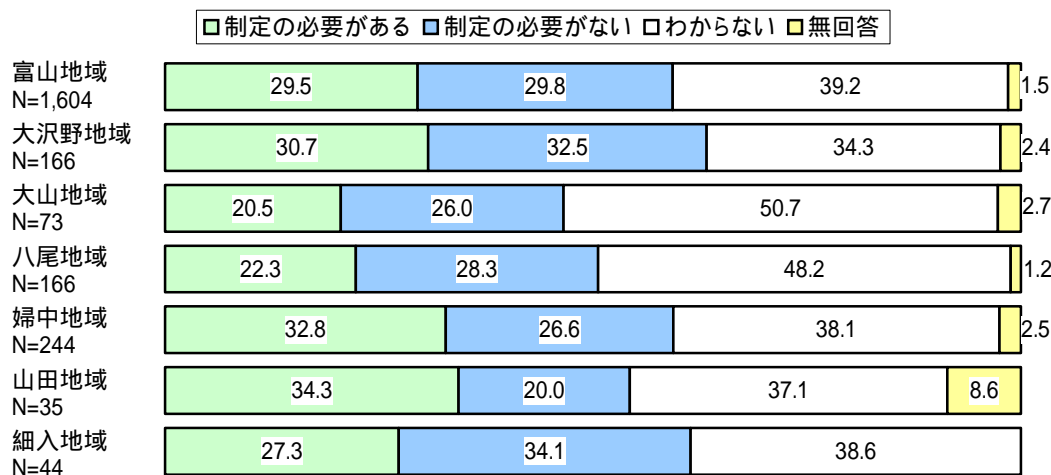
「制定の必要がない」が「制定の必要がある」を上回る

- ・ 「市民憲章」の制定について、「制定の必要がある」と答えた人は 28.9%、「制定の必要がない」と答えた人は 29.1%である。
- ・ 性別に見ると、女性は「わからない」という回答が半数近くあった。
- ・ 居住地域別には、婦中地域と山田地域以外は「制定の必要がない」が「制定の必要がある」を上回っている。

[性別・年齢別] 「市民憲章」の必要性 (%)



[居住地域別] 「市民憲章」の必要性 (%)



使用した調査票

富山市民意識調査

現在の富山市での住み良さについてお伺いします

問1 あなたにとって富山市は、どの程度住み良いですか。
次のうちあてはまるものを1つだけ選んで番号に 印をつけてください。

- 1 住み良い 2 まあ住み良い
3 あまり住み良くない 4 住みにくい 5 わからない

問2 あなたは、今後も富山市に住み続けたいと思えますか。
次のうちあてはまるものを1つだけ選んで番号に 印をつけてください。

- 1 ずっと住み続けたい → 問3 へお進みください
2 できるなら住み続けたい →
3 いずれは市外に引っ越したい → 問4 へお進みください
4 すぐにでも市外に引っ越したい →
5 どちらともいえない → 問5 へお進みください

問3 問2で「1」あるいは「2」を選んだ方にお伺いします。
富山市に住み続けたいという主な理由は何ですか。次のうちあてはまるものを2つまで選んで番号に 印をつけてください。

- 1 地域になじみや愛着があるので
2 隣近所のつきあいが良いので
3 老後の生活が安心なので
4 住宅に満足している
5 通勤・通学に便利なので
6 買い物や医療など日常生活が便利なので
7 都市基盤の整備など生活環境が良いので
8 ごみや下水道などの衛生環境が良いので
9 緑や自然環境に恵まれているので
10 教育環境が良いので
11 その他 ()

回答後、
問5へお進みください

問4 問2で「3」あるいは「4」を選んだ方にお伺いします。
富山市以外に引っ越したい主な理由は何ですか。次のうちあてはまるものを2つまで選んで番号に 印をつけてください。

- 1 地域になじみや愛着がないので
2 隣近所のつきあいがわずらわしいので
3 老後の生活が不安なので
4 住宅に不満なので
5 通勤・通学に不便なので
6 買い物や医療など日常生活が不便なので
7 都市基盤の整備など生活環境が悪いので
8 ごみや下水道などの衛生環境が悪いので
9 緑や自然環境に乏しいので
10 教育環境が悪いので
11 その他 ()

回答後、
問5へお進みください

(次のページへ)

施策の満足度についてお伺いします

問5 富山市では5つの「まちづくりの目標」のもと、62の「施策」を設定して総合計画を推進しています。あなたは、市の施策に対してどの程度満足していますか。次の表に記載されている施策(62項目)それぞれについて、満足度のあてはまるものを1つだけ選んで番号に○印をつけてください。(1 = 満足、2 = ほぼ満足、3 = 普通、4 = やや不満、5 = 不満、6 = わからない)

まちづくりの目標	施策	1 満足	2 ほぼ満足	3 普通	4 やや不満	5 不満	6 わからない
人が輝き安心して暮らせるまち	1 子育て環境の充実(保育サービス、放課後・地域児童健全育成事業など)	1	2	3	4	5	6
	2 学校教育の充実(自主性や創造性を育てる教育、教育環境の整備、安心・安全な学校づくりなど)	1	2	3	4	5	6
	3 高等教育の推進(市立専門学校、大学との連携など)	1	2	3	4	5	6
	4 市民の自主的な学習環境の充実(市民大学などの生涯学習、博物館など)	1	2	3	4	5	6
	5 個性や能力を生かした多様な雇用機会の創出(障害者・高齢者・女性等の就労支援など)	1	2	3	4	5	6
	6 勤労者福祉の向上(就業環境の向上、仕事と家庭が両立できる環境づくりなど)	1	2	3	4	5	6
	7 スポーツ・レクリエーション活動の充実(スポーツ教室・イベントの開催、体育施設の整備など)	1	2	3	4	5	6
	8 健康づくり活動の充実(健康情報の提供、健康相談・健康診査の充実など)	1	2	3	4	5	6
	9 介護予防活動の充実(介護予防施設整備、介護予防運動の推進)	1	2	3	4	5	6
	10 高齢者・障害者への支援(介護サービス基盤整備など)	1	2	3	4	5	6
	11 社会参加と生きがいづくり活動への支援(高齢者・障害者の社会参加と生きがいづくり支援)	1	2	3	4	5	6
	12 保健・医療・福祉の連携、充実(市民病院の充実、救急医療体制など)	1	2	3	4	5	6
	13 コミュニティの再生(地域活動、ボランティア活動の推進など)	1	2	3	4	5	6
	14 家庭・地域における教育力の向上(相談体制の整備、学校・地域との連携)	1	2	3	4	5	6
すべてにやさしい安全なまち	15 災害に強いまちづくり(災害への対応機能の強化など)	1	2	3	4	5	6
	16 雪に強いまちづくり(除排雪体制強化など)	1	2	3	4	5	6
	17 消防・救急体制の整備	1	2	3	4	5	6
	18 交通安全対策の充実	1	2	3	4	5	6
	19 防犯・防災体制の充実(地域の防犯・防災活動への支援、防犯意識の啓発など)	1	2	3	4	5	6
	20 安全で快適なまちづくり(食品衛生、大気・水質等の環境保全対策など)	1	2	3	4	5	6
	21 安全・安心な消費生活の推進(食育や地産地消、食の安定供給など)	1	2	3	4	5	6
	22 快適な生活環境づくり(上下水道、動物愛護、地域の環境美化、墓地・斎場整備など)	1	2	3	4	5	6
	23 循環型まちづくりの基盤整備(エコタウンの充実など)	1	2	3	4	5	6
	24 エネルギーの有効活用(太陽光発電などの導入、省エネルギー対策など)	1	2	3	4	5	6
	25 市民・企業・行政の協働による環境負荷低減への取り組み(資源回収支援、ふるさと富山美化大作戦の実施など)	1	2	3	4	5	6
	26 森林機能の再生・強化(計画的な森林の整備、森林ボランティアとの連携など)	1	2	3	4	5	6
	27 生態系の保護・回復(生態系に配慮した取り組み、野生鳥獣による人身被害の防止など)	1	2	3	4	5	6

(次のページへ)

まちづくりの目標	施策	1 満足	2 ほぼ満足	3 普通	4 やや不満	5 不満	6 わからない
都市と自然が調和した潤いがあるまち	28 賑わいと交流の都市空間の整備・充実(富山駅周辺、中心市街地の整備など)	1	2	3	4	5	6
	29 地域の個性と特性を生かしたまちづくり(観光・歴史・文化施設の充実、地域の個性の発揮など)	1	2	3	4	5	6
	30 ふるさと景観の保全・形成(自然景観や伝統的な景観の保全・活用など)	1	2	3	4	5	6
	31 ゆとりが感じられる都市生活基盤の整備(土地区画整理事業の推進、市営住宅の整備など)	1	2	3	4	5	6
	32 水辺環境の保全・育成(海洋レクリエーション拠点整備、河川の活用など)	1	2	3	4	5	6
	33 公園・緑地の整備	1	2	3	4	5	6
	34 中山間地域の振興(山間地での自然体験空間の整備、都市と山村地域の交流など)	1	2	3	4	5	6
	35 歩いて暮らせるまちづくりの推進(コンパクトなまちの実現、公共交通の活用など)	1	2	3	4	5	6
	36 まちなか居住の推進(まちなかでの住宅建設支援、まちなか住み替え支援など)	1	2	3	4	5	6
	37 地域の生活拠点地区の整備(市内14ヶ所の公共施設や商業施設などが集中している地区の住環境の整備など)	1	2	3	4	5	6
38 公共交通の利用促進(公共交通利用意識の啓発、ノーマイカーデーの実践など)	1	2	3	4	5	6	
39 拠点を結ぶ交通体系の再構築(公共交通の利便性の向上など)	1	2	3	4	5	6	
40 地域を結び生活を支える道路網の整備(国道、県道の整備促進、市道の整備推進など)	1	2	3	4	5	6	
個性と創造性に満ちた活力あふれるまち	41 広域・滞在型観光の推進(周辺観光地相互の連携・資源活用による観光の推進など)	1	2	3	4	5	6
	42 観光資源のネットワーク化の推進(交通網の整備、充実した観光情報の発信など)	1	2	3	4	5	6
	43 富山ブランドの発掘・発信(富山のイメージを高めるブランド化の推進など)	1	2	3	4	5	6
	44 コンベンションの振興(大規模な会議や見本市等の誘致の推進など)	1	2	3	4	5	6
	45 おもてなしの心の醸成(市民ぐるみで観光客等をもてなす心を育てることなど)	1	2	3	4	5	6
	46 伝統的文化・文化遺産の保全、活用	1	2	3	4	5	6
	47 新たな芸術文化の発信(ガラス工芸、商業デザイン等の振興・普及など)	1	2	3	4	5	6
	48 市民の芸術文化活動への支援	1	2	3	4	5	6
	49 広域交流の推進・充実(都市間の連携・交流による魅力の創出など)	1	2	3	4	5	6
	50 発展と交流を支える広域交通ネットワークの整備・充実(陸・海・空の広域交通ネットワークの活用など)	1	2	3	4	5	6
	51 世界とふれあう多様な交流の促進(国際交流活動への支援など)	1	2	3	4	5	6
	52 とやまの活力を生み出す人づくり(各産業を支える人材育成、起業家への支援など)	1	2	3	4	5	6
	53 とやまの魅力と活力を築くものづくり・しくみづくり(中小企業経営基盤安定、農林漁業支援、商店街の活性化など)	1	2	3	4	5	6
	54 とやまの未来を拓く新産業・新事業の創造(新産業の育成、企業立地の促進など)	1	2	3	4	5	6

(次のページへ)

まちづくりの目標	施策	1	2	3	4	5	6
		満足	ほぼ満足	普通	やや不満	不満	わからない
新しい富山を創る協働のまち	55 一人ひとりが尊重される平和な社会づくり(人の個性と創造性の発揮、自然災害や事故・事件への対応など)	1	2	3	4	5	6
	56 市民主体のまちづくり(市民と行政の協働を推進する環境整備、市政への参画機会の拡大など)	1	2	3	4	5	6
	57 男女共同参画の推進(社会制度や慣習を見直す意識啓発、女性の多様な能力の活用など)	1	2	3	4	5	6
	58 職員の意識改革と組織の活性化(多様な行政ニーズに対応できる市職員の育成など)	1	2	3	4	5	6
	59 計画的で効率的な行財政運営の推進(健全財政の維持、職員数の適正化など)	1	2	3	4	5	6
	60 開かれた行政の確立(市民との意見交換の機会の充実、広報紙等による情報提供など)	1	2	3	4	5	6
	61 情報化の推進(電子自治体の推進、情報セキュリティ対策など)	1	2	3	4	5	6
	62 地方分権・広域行政への対応	1	2	3	4	5	6

今後のまちづくりの重点についてお伺いします

問6

- (1) 富山市の施策(問5の1番～62番)のうち、今後重点的に取り組むべきであると思うものについて5つの「まちづくりの目標」ごとに1つ選んで番号を記入してください。

まちづくりの目標	問5の施策の番号(1～62)	今後重点的に取り組むべきであると思う施策の番号を、まちづくりの目標ごとに、左の番号の中からそれぞれ1つずつ選んで記入してください
人が輝き安心して暮らせるまち	1～14	
すべてにやさしい安全なまち	15～27	
都市と自然が調和した潤いが実感できるまち	28～40	
個性と創造性に満ちた活力あふれるまち	41～54	
新しい富山を創る協働のまち	55～62	

この中から1つ選んでください

- (2) 問6(1)で選んだ5つの施策のうちで、最も重点的に取り組むべきであると思うものを1つだけ選んで番号を記入してください。

(次のページへ)

あなたの行動などについてお伺いします

問7 富山市では、市民が主体となった取り組みを促進し、新しい時代に持続的に対応できる市民と行政の協働のまちづくりを進めています。

あなたが、普段から行っている取り組みについて、次の項目からあてはまるものをいくつでも選んで印をつけてください。

- 1 子育てサークルなどに参加している
- 2 PTA活動や学校行事に参加している
- 3 公開講座を受講し、知識・技術を習得し、教養を深め感性を磨いている
- 4 健康増進のため、日常生活の中で意識的に体を動かすとともに、体育施設の利用や健康スポーツ事業への参加など、スポーツ・レクリエーション活動を実践している
- 5 定期的に各種健康診断を受け、疾患の早期発見に努めている
- 6 防犯、防災、福祉などの地域活動やボランティア活動に参加している
- 7 学校や地域と連携しながら、しつけや情操教育、食育などの家庭教育を行っている
- 8 防災物資や生活物資を備蓄している
- 9 地域の歩道や生活道路の除雪に取り組んでいる
- 10 夜間外出時は、明るい服装や反射材の活用を心がけている
- 11 地域の環境美化活動に協力している
- 12 水資源の保全のため、節水を心がけている
- 13 分別排出を徹底するとともに、排出ごみの抑制に取り組んでいる
- 14 冷暖房温度を適正に設定する、過剰包装を断る、マイカーの使用を控え、徒歩や自転車にするなどエコライフスタイルの推進に努めている
- 15 まちなかでのイベントに参加し、まちの賑わい創出に協力している
- 16 自宅や自宅周辺などの身近な地域の緑化に努めている
- 17 地域生活における生活環境の利便性の維持・向上のため、地元商店などの利用に努めている
- 18 日常生活において、できるだけ公共交通を利用している
- 19 おもてなしの心をもって観光客と接している
- 20 地域の伝統行事に参加している
- 21 音楽や演劇、美術などを鑑賞し、芸術文化に親しんでいる
- 22 自らの経験を生かして国際交流・国際協力に取り組んでいる
- 23 地場産品についての理解を深め、購入に努めている
- 24 市民は市政の担い手であるという認識を持ち、機会を捉えて市政に参画している
- 25 市政情報や市役所出前講座等を活用している
- 26 インターネットなどのICT(情報通信技術)を利活用している

(次のページへ)

市の歌および市民憲章についてお伺いします

市民憲章とは、目指すべきまちづくりのための市民共通の行動目標を簡潔に表したものです。合併協議において、市の「花」「木」「花木」および「歌」「市民憲章」などの慣行の取り扱いについては、制定の有無を含め、新市において検討することとされました。そこで、合併後に慣行検討委員会を開催し、その提言に基づき、「花」「木」「花木」については、制定に向けて専門家などにより検討を進めることになりました。また、「歌」「市民憲章」については、同委員会において「必要」又は「あったほうが良い」とする意見の一方で、「これまでのように制定されていても歌う(読む)機会が少なく、市民の多くが意識さえしない状況では、多額の市費を投じて制定しても意味がない」「制定するからには、徹底して普及する必要がある」等の意見があり、市民の意向を調査するなどした上で対応することが望ましいとされました。

問8

(1) 富山市の「歌」についてどのように思いますか。次のうちから1つだけ選んで番号に 印をつけてください。

- 1 制定の必要がある 2 制定の必要がない 3 わからない

(2) 富山市の「市民憲章」についてどのように思いますか。次のうちから1つだけ選んで番号に 印をつけてください。

- 1 制定の必要がある 2 制定の必要がない 3 わからない

あなた自身のことについてお伺いします

【次の各項目について、あなたにあてはまるものを選んで 印をつけてください。】

統計処理のために必要な情報ですので、全員の方がお答えください。

問9 性別
1 男性 2 女性
問10 年齢
1 29歳以下 2 30～39歳 3 40～49歳
4 50～59歳 5 60～69歳 6 70歳以上
問11 職業
1 農林漁業 2 自営業 3 会社員
4 公務員・団体職員 5 パートタイム・アルバイト等 6 学生
7 家事専業 8 無職・その他
問12 富山市に住んでいる年数 (合併前のそれぞれの市町村での居住年数も含む)
1 3年未満 2 3～9年 3 10～19年 4 20年以上
問13 居住地域 (合併前の旧市町村別の区分)
1 富山地域 2 大沢野地域 3 大山地域 4 八尾地域
5 婦中地域 6 山田地域 7 細入地域

(調査項目は以上です。 ご協力ありがとうございました。)

富山市民意識調査結果報告書

平成 20 年 12 月 発行

富山市企画管理部・企画調整課

富山市新桜町 7 番 38 号

(076)443-2010

集計・分析 財団法人北陸経済研究所

富山市丸の内一丁目 8 番 10 号

(076)433-1134
